

大使信報

内閣本課

利
二
三

五 函	架	一 冊	十 類 大 使
--------	---	--------	------------------

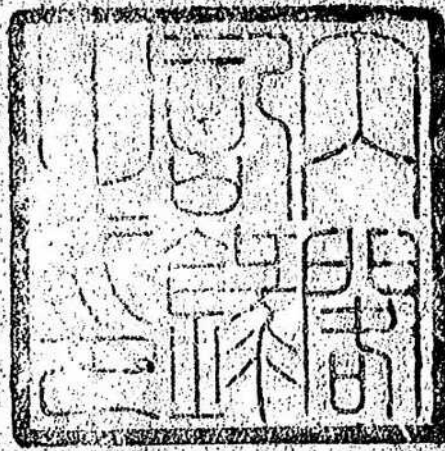
国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-5
	① 247

明治五年壬申正月

大使信報

第一號

大使事務局



正記

大正院

報第一号

四年辛未十二月廿一日

サンフランシスコヨリ

嫌克御坐被為在恭頌之至奉存候各位弥御精勵
御奉職遙祝此事ニ御坐候隨テ鄙職等横濱出帆
以來海上風浪静穏本月六日桑港到着候處当港
士民格別之懇遇ニ付米公使デロシグ氏ヨリ申立
候趣モ有之意外數日之羈滞ト相成加之輒路阻

大正院 郵船便ヲ以一筆致啓上候 聖上益御機

例言

特命全權大使ハ我
皇上一代リ國民ノ委官トナリ同盟ノ各國於テ
事務ヲ辦理スル全權ヲ有ス故ニ其談判ノ顛末
接待ノ景況等ハ皆我國ノ聲譽ニ關シ我民ノ榮
辱ニ係ルニヨリ人々其何如ヲ想像シテ日ニ信
報ノ到ルヲ俟ツ因テ每便其信書ノ要旨并日記
ヲ撮鈔刊行シ普ク世ニ知ラシム
各國新聞紙報譯ヲ挿入スルハ彼此參看シテ其
遺缺ヲ補ヒ其事實ヲ發揮スル為ナリ固ヨリ一
時見聞ノ隨記ニ出レハ間々訛誤アルヲ免レス
看者之ヲ諒ヤヨ

大使事務局

雪漸夕明廿二日当所發程華盛頓府へ相越候積
御坐候委曲ハ別紙畧日記ニテ御承知被下度候
以下畧之

山口尚芳

伊藤博文

大久保利通

木戸孝允

岩倉具視

正院
御中

畧日記

十一月十二日令アリ朝第八字ヲ以テ大使副使
理事官書記官以下横濱裁判所ニ集リ第十字
ヲ以テ發ス乃時ニ大使副使ハ馬車ヲ用ヒ波
戸場ヨリ小蒸氣船ニ乘リ第十一字本艦ニ上
テ室ヲ占ム釀氣既ニ成テ午後第一字抜錨轉

輪ス此日日新艦及ヒ金川砲臺ヨリ大使ノ為
 ニ祝砲十九發ヲ轟發ス米艦之ニ答砲スル
 同數米艦大使ノ為ニ祝砲十九發ス日新艦之
 ニ答砲同數次ニ英艦又大使ノ為ニ祝砲ヲ發
 スル同數日新艦又之ニ答發ス後子日新艦米
 公使ノ為ニ祝砲スル同數米艦又之ニ答砲同
 數艦浦賀港頭ヲ過キ和田岬ヲ出テ鐵路ヲ南
 東微東ニ取リテ進ム風北西ニシテ波浪穏ナ
 リ航歩平均九里強出港ノ時日新米艦共ニ水

夫櫓階ニ登リ整列シテ行ヲ祝ス大使ヲ送ル
 ノ小瀛艦隨テ横港ノ口ニ來ツテ歸ル
 十一月十七日此日大嘗會ナルヲ以テ晝餐ノ時
 大使直垂ヲ穿チテ食盤ニ臨ミ闔艦ノ旅客内
 外ノ別ナク盡クシヤンパン酒ヲ分与シ米公
 使デロング氏ニ向テ今日大嘗會ノ祭日タル
 ヲ以テ行旅中ト雖モ聊其畧式ヲ施ス一ヲ述
 ブデロング氏乃チ立テ杯ヲ舉テ満室ノ旅客ニ
 向ヒ大使所述ノ趣旨及他ノ祝詞ヲ述フ

十一月廿日此夜洋地ノ除夜タルヲ以テ西客ホ
シケ酒ヲ製シテ シヤンパン、ブランデー等類 銅盤ニ盛り
種ヲ和シ橙皮ノナマミ之ニ加フル者
我大使副使等ヲ招キテ之ヲ分チ酬酌ス終夜
點滴不絶

十二月三日天美晴此夜大使副使ヨリハワイ國全
權公使ニ書簡ヲ贈リ今般一行中ヲ以テ全權
使節ヲ派スヘキヲ事故アルニ曰天本國ヨリ
更ニ使節ヲ派スヘキヲ述フ

十二月六日朝第七字過 サンフランシスコ 港口ヲ認

ム八字二十分金門 ゲイルト ヲ過キラ九字十九分
港頭ノ一孤島 アラカニ 安坐スル砲台ヨリ大使
ノ為ニ祝砲十三發ヲ轟發ス 艦ノ前櫓ニ旭章ヲ 九字
五十分機橋ノ傍ニ至ル一小火艇来リ艦ヲ誘
フテ橋ニ及ホス時ニ十字ナリ同時ニチャール
スウクルコウト、フルックス始メ数人艦上ニ来リ
テ我使節及ヒ米公使ノ来著ヲ祝ス用意既ニ
成リテ同五十分大使以下馬車ヲ驅リテマーケ
トストリトトモントゴメリ、スークトノ角ニ築立セル

大旅館「クランドホテル」ニ入ル時ニ十一字十分ナリ
旅館中私房ノ外別ニ一公會局ヲ設ケテ書記
一統爰ニ集マリ諸公務ヲ辨シ理事官以下ハ
朝第十字ヲ以テ爰ニ伺候ス此日大使ヨリ一
統安著ノ趣ヲ長崎表迄傳信線ヲ以テ報知ス
十二月七日朝第十字当港在留ノ學生ニ面謁
ハキヲ令セラル第十一字当知府事以下数名
ニ接ス時ニ演説アリ第十二字海陸軍將士正
服ニテ入款ス次テ当港在留コンシエール一統午

後当地在勤ノ官吏数名第三字半当地市人ニ
接ス時ニ大使演説アリ其接遇ノ室ハ旅館中
ノ舞臺ニテ正面壁上ニ旭旗ト花旗ヲ交ヘ掲
ケ大使ハ紫袍ヲ穿テ其他副使書記官ハ洋製
ノ正服ヲ用ヒ其前ニ順列ス彼方ハ海陸軍官
ノ外概子正服ヲ用ヒテ来リ接ス始終米公使
及書記官ヲイス傍ニ并侍ス夜十字当地第二
番砲兵隊附属ノ樂隊晝間大使ニ約アリテ旅
館ノ前ニ来リテ樂ヲ奏ス門外市民群集大凡

四万人盡ク大使ノ為メニ祝声ヲ發シ安着ヲ
賀ス大使紫袍ヲ著テ之ニ臨ミ衆ニ向テ演說
アリ米公使之ヲ譯シテ之ヲ述ヘ次テ自己ノ
演說アリ衆皆拍手舉声蕩々絶ヘス十二字半
樂歇ンテ衆散ス

十二月八日午後大使及其他隨從數名ト共ニ市
街遊行第七字歸館

十二月九日大使微恙アリ司法省官員佐々木高
行以下当地ノ裁判所ニ到ル午前副使以下隨

行ノ徒「キンボール」ノ製車局「ミツチヨシ」毛織所及公園
ニ到リ夜八字ヨリ「カリホルニヤシエ」ト山ト称スル劇
場ニ大使副使其他隨行共ニ米公使共ニ招ニ
應シテ到リ觀ル夜第十一字歸館次テ某氏ノ
躍舞會アリ大使以下數名之ニ招カル第二字
歸館

十二月十日約アリテ八字半大使副使及ヒ其他
隨從ノ徒四十八人米公使ト共ニ旅館ヨリ馬
車ヲ驅ツテ波戸場ニ到ル棧橋ニハ歩兵一小

隊兩側ニ羅列シテ使節ニ砲ヲ捧ク第十字カヒ
 トル号火船ニ乘ス樂隊音樂ヲ奏シ之ニ從フ船
 アルカトラス砲台下ニ到ル砲台ヨリ十三發ヲ祝
 ス次ヲホルトポイントニ到ル祝發同數十一字過
 シセル島砲台前面ニ到ル祝砲同數岸上砲兵附
 屬ノ樂隊音樂ヲ奏ス午後一字マ島ニ投錨ス
 此時岸上ニ海兵一小隊戎衣ヲ裝ヒ整列シテ
 使節ヲ待ツコモトール官バロツト氏其他數名ノ海軍
 士官正服此日大使袍冠以下洋製服ヲ穿チテ船ニ入りテ大使ニ

見ニ次テ午餐ニ就キ演舌アリ食畢テ二字五
 分上陸ス大使海兵ノ前面ヲ過ク捧砲ノ禮アリ
 リコモトール大使ヲ導ヒテ己ノ家ニ到リ須臾ニ
 ノ海兵支庫ヲ巡覽シ畢テ歸路乾船槽ヲ見ル
 時ニ此島ノ砲台ヨリ祝發ス同數三字歸船四
 字半過館ニ入ル府ヨリ此島迄三十二里
 十二月十一日木戸大久保山口三副使銃器製造
 局ニ至ル十二字半歸館一字半町兵第二ブリカ
 大ホールト町及ヒ第二第一街ノ間ヲ過キテ旅

館前ニ到ル旅館ノ一隅ニ一壇場ヲ設ク其將
帥使節ニ接シ演舌アリ夜第八字樂院ニテ町
兵一小隊撒兵ノ操練アリ使節以下招キニ應
ス当日^{ブルトクス}ノ勸ノニ因リ大島瓜生兩人鑽
山視察ノ為メ^{ニエーアルマタン}ニ赴ク

十二月十二日第九字出車キナル乘車製造局ニ到
リ次テ^{ミツシヨ}毛織所ニ到リ^{シヤンパン}菓子等ヲ
食ス次テ^{ウートワール}ドノ公園ニ到ル第四字半歸
館当自理事官以下各分課ヲ申渡サル

十二月十三日朝第八字四十五分カリホルニヤノ金

銀舗ノ社長^{ミール氏}ノ家ニ至リテ朝餐ス

^{サンフランシ}
^{スコノ西南大}

凡十^七支配入^ラスト^ン及將軍スコ^フイルト等ニ會シ次テ^ラル

スト^シ氏ノ家^{ベルモント}ニ到リ歸ル夜第六字

十二月十四日午前九字大使副使以下三十二人

米公使ト共ニ^クラント^トヲ遊覽ノ為メニ^突館ス

十二月十五日朝第十字発車^ラシ^マ女學校及^ヒ林

可倫童學校ヲ視察ス帰路午後第一字合衆西

部電信局ニ到リ華盛頓ニ在ル外務執政^{ハミルト}

ハビス氏及ヒ電氣機ノ發明家モル氏及ヒチカゴ府ノ知事ニ應復ス此線ハ合衆國政府今般日本使節ノ為メニ設タル者ニテ其價六千元ヲ費ヤスト云第四字五十分帰館夕第八字市入ヨリノ饗筵ヲ受ク即チ之カ為メニ当館ノ食堂ヲ開キ四面花旗ヲ掲ケ正面日旗ヲ掲ケ舳木ノ花ヲ挿ミ来着ヲ祝スルノ詞ヲ掲ケ其前ニ当府ノ知事坐シ右ニ大使副使以下左ニ米公使以下ヲ列ス大凡三百人大使伊藤副使ノ演舌ヲ

リ共ニ知事公使以下皆之アリ第十一字ニノ散ス当日午後一同需ニ應シテ寫真ヲ取ル

十二月十六日大使以下三十六人午後五字ラストン氏

先ニ出不金銀
舗ノ支配人ノ招キニ應シテベルモントニ至ル此ニ其

大遊ニ陪スル者大凡百名夜一字十分帰館当

日鑿師シーモン氏ヲ雇フノ書状ヲ遣ハシブルークス

氏ノ給料ヲ増スヲ達ス中山信彬ニ英國滞

在ヲ許サレ

十二月十七日快晴アリコレヲテノ競馬場ニ招カ

ル是使節ノ為メニ関場セルモノナリ第十二
字出車第六字帰館大使病ヲ以テ缺ク昨日夕
第一字大使副使外二人当市ノ豪商オチナスニ午
餐ノ招キニ應ス岩山真樹ハ英國へ轉學武藤
精一ハ英國留學ヲ命セラル學費ヲ賜フ阿部
潜冲守固岩山真樹牧畜取調ノ為癸スヘキノ
令アリ

十二月十八日午前十字十分大使微恙其他障
碍アルヲ以テ水戸以下四名約アリヲクラン
トノコト

氏ノ家ニ到リ小宴ヲ請ク此日来第一月三十
一日水曜日我十月二十一日第六字半出門第七字鍊道驛
ヲ癸シ直ニ華盛頓府ニ達スヘキヲ吹ス

以上日記中ヨリ其要分ヲ抄イ夕シ候儀
ニテ尤遺漏モ可有之其他外務省へ日刊紙
ヲ以テ送り候間其要分譯出来次第被是御
参考被下度候事

シラシラシラ市民等吾大使へ奉ル祝詞

我カシラシラスコ洲ハ米國聯邦ノ門閭ナリ今我等
貴大使ノ來着ヲ見テ雙手ヲ舉テ歡ヒ迎ヘ爰ニ
其安着ヲ拜祝ス而シテ当地ノ市民等皆 貴大使
ノ來意ヲ知レリ請フ試ニ之ヲ述ニ抑 貴大使
等外交ノ交誼ヲ厚フセシテ謀リ貿易ヲ横メ
シテ欲シ而シテ國ノ推理ヲ掌握シ公義ヲ確
然固執シテ歩ヲ開明ノ域ニ進メシテ希ヘリ
貴國ニ未タアラサル所ノ物モシ予國ニ持有シ

テ之ヲ 貴國ニ給与シ其便ヲ得ハ是予輩カ深
ク悦フ所ニシテ又予國ノナキ所ヲ 貴國ニ請
求スルモ亦復是ノ如キヲ信ス是レ各國ノ習例
ナリ我カ技藝學術及物産ノ諸製造平時戦時ノ
諸器械ヨリ大小學校及ヒ日用ノ諸事物ニ至ル
マテ都テ隱クサス胸襟ヲ豁開シテ之ヲ 貴大
使等ノ檢覽ニ供ス之レ遠人ヲ饗スルノ微意ナ
リ
今貴大使ノ予國ニ來レレ益ス兩國ノ交誼ヲシ

ヲ厚カラシメ供テ兩國ノ利益ヲ來サントラ之
祈ル

大使ヨリサンフランシスコ港ノ市民ヘノ答詞

予天皇陛下之勅ヲ奉シ締盟各國ニ使スル其始
米洲聯邦ノ閩頭ナル 貴港ニ來リ汝子ノ衆ヨ
リ斯ク懇薦ナル接待ヲ受ク實ニ欣抃ニ堪ヘサ
ルナリ予此懇薦ナル接待ヲ 天皇ヲ始メ奉リ

全國一圓ニ受タル榮譽ナリトシテ汝ノ芳意ヲ
鳴謝スルナリ

当初 貴國ト始メテ親誼ヲ締ヒシヨリ兩國友情
ヲ結實セシハ真ニ貿易通商ノ力ニヨレリ之ニ
目リテ我國民開化ノ國風ヲ知ヲ得シヨリ今猶
海外ノ技藝學問物産製造及ヒ器械ノ諸術ヲ研
究シ明ヲ達シ精ヲ抽ニスルノ地ニ至ラントヲ
希望セリ

今度大使派遣ノ真意ハ實ニ各國親誼ノ基礎ヲ

固定スルト公函ノ政府寛裕ノ民ハ幾許ノ特權
 ヲ持有セルカヲ觀ンガクメナリ又 貴國ノ技藝
 學問物産器械ヨリ大小ノ學校訟訴裁判ノ法制
 ニ至ルマテ皆之ヲ閱檢シテ之ヲ採リ之ヲ摘
 以テ後來我國ニ施スノ地歩トナサントス是レ
 我國ノ富ヲ増スノ道ニテシカモ貿易ハ兩地ニ
 關スレハ後來ノ貴地ニモ其利ヲ施スニ至ラン
 貴國ニ得タル學問技藝ヲ隱スコトナク予力檢
 閱ニ供シ其羨ヲ共ニ分クントセルハ實ニ滿悅

ノ至ナリ予輩應サニ勤テ熟察玩味シテ後來汝
 等ト凡ニ交リ共ニ樂ムノ媒ナト為サンコトヲ期
 スベシ
 汝等斯ノ如キ芳意ヲ以テ予ヲ遇セル由ヲ予速
 ニ書ヲ呈シテ 天皇陛下ニ奏聞セハ 歡慮殆
 シト深カラシハ予疑ハサル所ニシテ全國ノ庶
 民尤モ欣謝ニ堪ヘサルヘシ是予汝ニ信保スル
 所ナリ

千八百七十二年第一月十六日
我註出板サ
ワラシスコ港新聞翻譯

郵船アメリカ我大使、乗組少着岸スベキ由ヲ傍ノ電
信機ニテ昨朝未明ニ報知アリ当地ニテハ此時
同船ノ來着ヲ今日ナラントハ思ハサリシニ第
十字アルカトラス島ノ砲台ヨリ祝砲ヲ發セシニ
目テ皆意外ノ急着ニ驚ケリ
此說瞬時間ニ市街ニ派布シ日本使節及米國公

使デロング氏等ヲ收接スル為メニ用意ヲ急ケリ
太平海郵船ノ上陸場ハアメリカ船ノ未夕繫定
セサル前ニハヤ追々ニ人立チラナセリ陸上ヨ
リ船中ヲ望ムニ日本使節ト米國公使及使節隨
行ノ人々ノ既ニ最高ノ甲板上ニ立出タルヲ遙
ニ見ル岸邊ニハ当港市民上下ノ別ナク群立セ
シガ郵船ヨリ道板ヲ卸セルヲ見ルヤ否衆人ヲ
押分テ日本國ノ領事官ナルブルーム氏長八日ウリヤム氏本六日
成シ入ナリヲハジメ数多ノ人々船中ニ入りテ今日

大英官報

来著ノ珞客ヲ迎ヘ其安著ヲ祝シ各其悦ヲ述ハ
 タリデロング氏ハ久シブリニ其朋友ニ會シテ満悦限
 リナク使節及ヒ隨行ノ官員モ異境風光ノ新奇
 ナルハ平穩ニ著岸セルノ怡悦其容色ニ現レク
 リ高貴ノ人々船中ニ来レルハデロング氏ヨリ引合
 ハセ謁見ノ礼モ相濟シカバ兼テ用意ノ旅館ニ
 案内セリ

使節及隨行ノ官員及少年ノ留學生惣計百零五
 ハナリ此内五十員ハガラントホテル旅館ヘ入り四十五

負ハオクシデンタル同上十員ハリツキホウス同上ニ入りテ休息セ

リ米公使夫妻ト其兒女ハガラントホテルニ留マレリ

使節ノ名ハ岩倉ト云是 日本天皇陛下ヨリ糸

約濟ノ各國ヘ派出サル、モオイエキストラオर्टナイリー

特命 全權 大使 及此帝國ノプライムミニ

ストル大臣ノ職ヲ持シタリ木戸山口大久保伊藤ト

イヘルハ皆先ニイヘル全權使節ノ副役トリ皆

高貴ノ人ニシテ聰明ノ容兒アリ而シテ是等ハ

都テ神祇外務司法工部文部海陸軍大藏等ノ各

省ヨリ二員三員ヲ出シ其關係スル事務ニ付外國ノ所置振ヲ取調之ヲ後來自國ニ取用シタメナリトソ

一行ノ内ニ高官ノ少女五人アリ是ハニューヨーク或ル女學校ニ入りテ英語學ヲ始メ諸術藝ヲ學ブ為メナリ此外ニモ數多ノ英才ヲシキ少年アリ皆是迄ノ留學生ノ如ク此地ノ學校ニ入りテ諸學ヲ學フヨシ

明治五年壬申正月廿六日横濱刊行ヘラルド新聞續

米國陸軍士官日本大使ヲ迎ル事

同日正午日本領事ブルック氏へ使者来リテ曰クゼラ官名スコフ井ールド以下陸軍士官等待受ク居レリト依テ直ニ其由ヲ大使及ヒデロング氏ニ報告シタルニ岩倉殿ハデロング氏ノ部屋ニ往キ此兩人共日本諸省ノ卿輔及ヒ書記官共都テ十二名其外米國及ヒ日本ノ通辨官等ト一同ニ行ニ並ヒ歩

ミテ旅館ノ圓室ニ赴ケリ

各國領事面謁ノ事

第十時サフランシスコ在留ノ各國領事官旅館ノ別室ニ集會シテ大使ニ謁ス

又サフランシスコ市民ノ世話役ハデロング氏ニ誘ハレテ大使ニ謁ス此時世話役ノ頭取アルビスウェーシ氏ヨリノ賀状ヲ大使ニ呈ス

大使へ音樂饗應ノ事

セラル官スコフ井ールド氏ノ令命ニ由テ火曜日第十時第二砲軍ノ樂隊旅館ノ前ニ來リテ樂ヲ奏シ大使ニ聞カシム大使及ヒ附屬ノ諸官員共來客旅館ニ集マリテ諸室共ニ頗ル雜沓シ岩倉殿ヲ窓邊ノ休憩所ニ送ラントスルニ殆ト通り難キ程ナリ大使着坐アリテヨリ、デロング氏其側ニ倚子ヲ近ツケ通辨官ヲ用テ暫時談話アリ樂隊數譜ヲ奏シテ後大使外五人ノ御輔及ヒデロング氏ハ

樓閣ニ上リ笑聲ヲ奏シテ悦喜セリ

岩倉殿市民へ告諭ノ事

音樂終リテ衆人ノ聲モ静マリテヨリ、デロング氏
大使ヲ誘ヒ出デシニ大使ハ長サ一寸二分程幅
ハ一尺五寸程ノ紙一葉ヲ開キ日本語ニテ讀下
シタリ大使ハ小音明聲ニテ恰モ謡歌ニ似タリ
群集ノ人々其懇懃ナルヲ賞歎シテ大ニ喜ヘリ
デロング氏ハ大使ノ需ニ應シテ其譯文ヲ讀ミ聞

シタリ

テロング氏告諭ノ事

衆人デロング氏ニ聲ヲ掛ケシニデロング氏ハ暫ク用
意シテ進ミ出テ其告諭ヲ讀下シタリ

安着歡喜ノ事

火曜日岩倉殿ハ日本長崎ニ電信機ヲ贈リテ其
國ノ政府ニ恙ナク当地ニ着シ丁寧ナル饗應ヲ

受ケタル趣ヲ述ヘタリ此電信ハ直ニ香港ニ送
リ夫ヨリ長崎ニ通シタリ又若倉殿ノ二子ハ
ブロンウ井ツキ府ノロツシルスコルレージノ學校ニ苗學セルニ
由テ是ニモ電信機ヲ以テ安着ノ由ヲ知ラセタ
ルニ一旦米人ノ手ニ渡リテ後同日夕ニ子ヨリ
返答アリ安着ノ歡ヲ述ベタリ此電信ハ實ニ歡
フベキ事ナレバ大使ハ殊ノ外悦喜ノ様子ナリ

大使信報第二号

明治五年壬申正月十二日 ソートレイキシテ、ヨリ

前略 去冬十二月廿二日郵職光一行ノ者桑港發

軼当日サクラメント到着同所ハカリホルニヤ州治ニ付州廳
官員接待ノ設有之廿四日曉同所突軼尤車中睡
眠可致装置有之漁車ニテ晝夜トモ蒸瀛轉機通
行候様相成居モノニ候テ直様華盛頓府迄趣可申處
道中阻雪車行ヲ妨候ニ付無據ニ夕州治ソールトレイキシ

テ一迄迂路相越同所ニ滞留ノ内御國新正ニ相
当リ候間一行中賀正ノ式ヲ舉ケ当夕同行ノ外
國人米公使ヲ初外当所ノ官員等招待祝儀取設
ケ其他同所官員ヨリモ接待ノ禮有之委曲ハ略日
記ニテ御承知有之度候然ル處漸昨今ニ至リ轍
路通行相開候趣ニ付弥明十三日当所発軛ニ決
着イタシ候 中略

当ソールトレイキシテハ山間湖際ノ僻地ニ候處先年
モルモン宗徒 此ハ加持カ教ノ別派ニテ御承知ノ通リニゴヨクヨリ放逐
一夫教妻ヲ蓄候事ヲ許シ候異教ニ御坐候

被致当所ニ竄伏草莽ヲ披キ家屋ヲ營シ只今ニ
テハ儼然一市府ヲ成シ既ニ最初ノ内ハ他教ノ
徒来往ヲ許サス其宗教ヲ誹謗スルモノハ暗殺候事
モ有之由乍然當時ハ華盛頓府ヨリ鎮台ヲ命シ
軍府ヲ開キ裁判所ヲ置先折合居候姿ニ御坐候
下略

全權副使山口尚芳

全權副使伊藤博文

全權副使大久保利通

全權副使木戸孝允
全權大使岩倉具視

正院

御中

畧日記

十二月廿二日第一月廿一日雨第七字出館大使以下一同
馬車ニテ出港甲比丹号火輪ニ乘シ直チニ

クランドニ渡リ別仕立ノ蒸氣車命社ヨリ使節ヲ為ニ仕立ル者ヲ以

東ニ進ミストツハトンニ至リ癩狂院巡覽同日第六

字三十分サカラメント府ニ達ス当府ハカリホルニヤノ都

府ニノ使節饗應ノ為ノ官員出迎ヒ当處ニテ

右饗應ノ為メ千五百元募リシ由同夜劇場ニ

招カレ大使以下一同見物曉第一字帰館

廿三日第一日晴第十字馬車ニテ合衆鉄道會社ノ

製造所見物第十二字州ノ議政堂ニ至リ上下

院其外見物ヲ第六字議事堂點燈見物第八字

公筵ヲ受テ使節五名理事官并書記官五名之
ニ列シ州ノ鎮台以下之ニ對シ演舌アリ同第
三字發輪

廿六日第六字ヲグデシニ朝餐ス此處ニテ車ヲ換ヘ
ニウヨークヨリ使節ノ為ニ來ル火車ニ乗ルベキヲ
前途雪深キヲ以テ來ル能ハス本邑旅館ニ之
シキラ以テ路ヲ曲ケテソールトレイキニ至ル此府ハユ
夕郡ノ首此處ニテモ同シク饗應掛リヲ任シ金ヲ募
リ馬車等ヲ備フ

廿八日晴第十一字郡ノ議事堂ニ至リ郡司市正
以下百餘人ニ接シ彼我演舌アリ畢テ教堂并
博物館等ヲ見物ス

廿九日晴第十一字出車府ノ東方二里半強ドウダラ
ス堡ニ至リ酒菓ヲ受ケ其將軍以下演舌アリ
明治第五年壬申正月第二月九日雨雪交降ル各自心ヲ
賀ス夜第八字ヲ以テ米公使及当地ノ官員及
應接掛リヲ饗應ス彼我演舌アリ之ニ列セサ
ル我官員ヘハ祝酒トシテサンパンヲ賜フ

二日美晴ハワイ國公使デロレグ氏ヨリ書翰ヲ大使副使ニ贈ル

三日右返書ヲ遣ス

四日陰晴不定当府知事ベート以下市中官員陸軍將士等ヨリ先約アリテ此夕第十字旅館ニ於テ大使副使書記理事官ヲ饗セリ此宴ハ公宴ニ非ス男女渾同ノ私宴ナリ食后踊舞會アリ第三字閉堂

十日^{十八日}第^二月晴今朝ラグデシヨリ森辨務使宛ノ公信ヲ

得タリ開封シテ分配ス七日桑港ニ着スルモノナリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大使信報第三

大使信報第三号

太平洋郵便

前畧然ハ第二号便申上候通太平社鉄道阻雪久
 布監湖府ニ滞在候蒙道路相開候旨報知有之ニ
 付去月十三日同府發軔ノ積御座候蒙又候雪解
 ニテ途中川々水漲ノ報有之猶一日ノ逗留ニ相
 成十四日午時鄙職一同々府發軔同十八日チカ
 ゝ府迄相越一日夜逗留同府官員ノ接引ニテ同

大使信報第三

府中震々見物イタシ候同府ハ昨歲中迄古希有
 ノ大火ニ罹リ失産ノ窮民不少英國女王等ヨリ
 毛救助ノ金子差遣候事有之趣ニ付右救助會社
 ノモノニ金五千トルラ寄附イタシ候同十九
 日同府發軔同廿一日午後華盛頓府到着仕候森
 辦務使其他迎接同府中アルリントンハウスト
 申旅宿ニ止宿致居候右ハ其砌電信ヲ以不取敢
 御報告及候間疾御承知ト存候引續同廿五日當
 國大統領謁見御國書渡方トモ無滯相濟申候尔

大傳信報第...
 三

時双方口上ハ別紙寫ニテ御承知有之度候云々

壬申二月十一日

山口 尚芳

木戸 孝允

岩倉 具視

正院

御中

畧日記

正月十四日天陰午前九字五十分大使以下夕ウ
 ンセント旅館ヲ發シテ汽車ニ乗シ十字三十
 分監湖府ヲ發シテ十二字ヲクダインニ達ス午
 後二字雨來ル四字十五分大使以下逢迎ノ為
 ニ來レル汽車ニ移乗ス車中寢食ヲ自由ニスルモノ五字雪
 頻ニ來ル夜二字カルカタニ至リ前途阻雪ノ
 報アルヲ以禁轉ス汽車ノ發スル明朝ヲ期ス
 十五日天晴午前九字三十分昨夜期ス所ノ汽車來

ルヲ以發軔ス此日所過ノ途上則チ前日阻雪
 ニ鎖セルノ地四ヶ處アリ其距離皆三十里ニ
 下ラス

十六日美晴車路漸仰ヒテロツキー山嶺ニ攀チ
 午前八字シヤルマンニ達ス此地ヲ最高ノ頂
 トナス水面ヨリ高八百二十余丈此ヨリ地漸
 低レテ亞米利加有名ノ洪野ニ入ルプレイ夜
 八字五十分ノルスパラットニ入ル此地ハ生
 齒頗繁密九字廿六分長橋ヲ過ク河ヲプラツ

ト河ト称ス廣サ里許

十七日晴九字四十分ヲマハニ達ス衆皆他車ニ
移乗ス府ヲ踰ヘテ河ヲ渡ルミヅリト河ト名
ク此ヨリ以東ハ入烟漸連ナリテ田野頗開ケ
又洪野荒涼ノ景ニ非ス夜三字ヒユルリンダ
トニ到ル同五十分ミシ、ピ河ヲ度ル橋長
サ一千八百丈築造ノ廣大途上未見ザル所ナ
リ

十八日晴八字五十分メントダニ入り十二字

三十分チカゴ府ニ達ス大使以下馬車ヲ驅ツ
テ一字十分ツリメント及ヒグラントセント
ラル旅館ニ入ル市正以下諸官員陸軍大將セ
ルダン氏以下ニ引接アリ

十九日晴風寒第十字ヨリ府入ノ招ニ應シテ使
節一行盡ク馬車ニ乗シテ府ノ北西ニ到リ汲
水所ヲ觀ル此館内ニ壮大ノ汽機ヲ設ケテ湖
水ヲ汲引シテ市中日々ノ用ニ分配スソレヨ
リ馬車ヲ驅ツテ市街ヲ巡覽ス又府ノ南西ニ在

ル小學校ニ到リ生徒習讀ノ風ヲ檢ス此日所
過ノ地去歲火災ニ逢フテ破壊セル跡痕ニシ
テ無双ノ壯築僅ニ殘礎破柱ヲ餘ス見ルニ堪
ザル状アリチカゴ府ノ火ニ日二夜ヲ連燃セ
シ一人ノ知ル所ナレバ贅セズ午後四字半歸
館使節ヨリ五千元ヲチカゴ遭災ノ窮民ニ救
賑セリ此夜八字象出館九字汽車ニ乗シテ發
ス
廿日晴八字クレストンニ朝餐ス十字四十分ウ

一ステルヲ過キ十二字五十分午餐ヲアルリ
ヤンニ採ル午後四字十分ピツ、ビルグニ入
ル此府器械製造ノ繁賑ナルヒラリキ費邦近傍ノ樞地
ト稱スル位ナリ夜二字半ハルリスホルグヲ
過ク
廿一日陰ヒラデルヒアノ西南側ヲ過キテ七字
廿分ウイリミングトニ到リ朝餐ス十字四
十分ボルチモール府ニ入ル府中轍路アレ氏
汽車自轉ヲ許サス六馬ヲ以一車ヲ牽キ府ヲ

出ラ又發輪セリ時飛雪紛々十一字五十六分
華盛頓府ニ入り汽車驛場ニ達ス森氏以下逢
迎ノ為ニ来レリ大使以下車ヨリ下リ汽車傍某
屋ニ入り市中接待人々引接アリテ後直ニウ
ラルモントアブニユ一街角ニアルアルリン
グトソ旅館ニ投セリ時ニ二字大統領ノ夫人
花ヲ大使ニ贈ル

廿二日晴朝九字半過大副使当府金座支局ニ赴
キ十一字帰館ス

廿三日昨夜ヨリ飛雪紛々杉浦弘蔵大原令之助
三等書記官ニ任セララル

廿四日晴國務卿ヒツセル氏ヨリ書柬差出タシ見玉
淳一郎ニ法教ヲ學ハシムヘキ事ヲ陳ブ明日
謁見ノ式案ヲ政府ヨリ贈ル

廿五日晴十二字大副使ハ衣冠書記官ハ直垂ヲ
穿テ皆帶劔シテ書記官五負大統領公郎白殿千抵
リ玄關ヨリ登階ス階ノ左右ニ巡捕吏数十名
整列シテ立テリ使節以下先ツ青堂ニ入ル時

ニ大統領グランドハ副統領ユルフアツクス及ヒ國
務卿以下諸官員ト東堂ニ入り堂ノ南中央ニ
坐ヲ占ム國務卿フイシユハ森辨務使ト共ニ青
堂ニ入り来リ大副使以下ニ面接シ畢ツテ自
ラ大使ノ手ヲ把テ東堂ニ誘フ副使以下其後
ニ隨行シテ進ミ順序ヲ以大統領ノ右ニ整列
ス此時フシユハ使節ヲ大統領ニ引接ス唯互ニ
磬折スルノミ握手ノ禮ナシ次ニ其左方羅列
スル文武諸官長ニ對接シ畢ツテ大統領ニ半

向テ演書ヲ披ヒテ之ヲ讀ミ我 天皇陛下ノ
國書ヲ進呈スル事我等ニ於テ無限ノ光榮ヲ
リト謂フニ至テ書記官進テ御國書ヲ大使ニ
出ス大使之ヲ大統領ニ渡ス大統領受テ直ニ
フシニ致ス大使又其演書ヲ續讀シ畢ル大統領
領因テ其答文ヲ讀ム一回然後自ラ其諸官員
ヲ大副使以下ニ引接ス大使又副使以下ヲ彼
ニ引接シテ互ニ答札ヲナシ畢ツテ解列シテ
談話頃刻後大統領大副使以下ヲ導キテ白堂

ニ入り其夫人及ヒ國務官員等ノ細君ニ引接
ス然後使節出殿帰館ス是日所會ノ者ハ内外
事務局大藏民部ノ長官其外ハ海陸ノ諸將帥
ナリ午後四字副統領隊長及ヒ各國欽差官員
來訪ス大副使書記官盡ク正服シテ之ヲ接待
ス談數刻ニシテ散ス

廿七日晴十字過大副使以下一行盡ク馬車ヲ驅
テ府ノ議事堂ニ抵ル使節入廳ノ時滿堂ノ議
員等起ツテ敬接大副使進テ議長ノ机前ニ近

クゼ子ラル官バンクス使節ヲ議長プレイシニ引接
ス議長因テ起チ大使ニ向テ演舌一條ヲ説ク
畢テ大使又其演書ヲ披テ讀ム次ニバンクス其
譯書ヲ讀ム滿堂ノ看客拍手歡ヲ唱フ式畢テ
衆議室ヲ出テ堂ノ内ニアル文庫ニ入り巡覽
シテ又大副統領ノ公室ニ入り然後帰館ス午
後副使及ヒ書記官四人名刺ヲ各國欽差及ヒ
國務官員等ノ私宅ニ投シ昨ノ尋訪ニ答ヘテ
帰館ス夜九字招ニ應シテ大副使以下五十余

人ナシヨナルスエートル劇園ニ游フ

廿九日陰朝八字半大副使國務卿ヲシユ氏ニ抵
諸省理事官等ニ引接スベキノ期ヲ次月曜日
ニ定メテ帰館ス

二月朔日陰使節ヲ舞踊會ヘ招ク皆病ヲ以テ辞
ス

二日天陰午前十字大副使外務省ニ到リ應接ア
リ第一森監田之ニ陪ス

四日陰午後一字半大副使外務省ニ應接ヲナス

第二 森監田之ニ陪ス夕第八字半大副使及ヒ
理事官招ニ應シテ大統領公邸ニ饗宴ヲ受ク
森氏及ヒ公使デロング之ニ陪ス所會ノ饗宴
ハ文武ノ長官及ヒ統領ノ夫人及ヒ陪從ノ女
流等ナリ十一字過キ帰館

六日微雪午後一字大副使外務省ニ應接ヲナス
第三 夜八字招會ヲ施セリ所會ノ男女凡一千
余人文武ノ官員市井ノ豪族等陸續雲集館ノ
引接堂ニ於テ大副使以下ニ握手ノ礼ヲ行フ

凡三字間後食堂ニ於テ酒食ヲ採レリ堂ノ四壁ハ彼我ノ國旗ヲ張リ其間ニ皇室ノ記号菊桐ヲ交ヘタリ夜十一字衆散ス

七日美晴トラドリヒヤ府招待人ノ招ニ應シテ肥田以下數名機械製造所等巡見ノ為其府ニ赴ク夜八字半招ニ應シテ副使以下數名饗ヲ西班牙公使館ニ受ク

九日雪午前十字半大使及ヒ書記官三名寺院ニ抵ル

謁見ノ節大使演説

我 天皇陛下大業ヲ中興シ國政ヲ脩整セシヨリ文明各國ノ成績ヲ知リ且外國交際ノ友誼ヲ一層親密ナラシメント欲シ今般我等ヲ特命全權使節トシ結盟ノ各國ニ派出セラレ我等乃首トシテ貴邦ニ来リ今日大統領ニ拜謁シ我 天皇陛下ノ國書ヲ進呈スル我 我等ニ於テハ實ニ無限ノ光榮ナリ奉命ノ主旨ハ粗載テ國書ニ在ルカ如ク兩國ノ間ニ存在スル所ノ交際貿易ヲ

益盛ナラシメン^ト貴國政府ニ商量シ以テ我
國ノ進歩ヲ輔翼セン^ト謀ルニアリ大統領幸
ニ此言ヲ信聽シ我國ノ公利ヲ垂念シ我等ノ使
命ヲ遂クシメラ^レン^ト希望ス我等又此期ヲ
以テ大統領ノ安寧ヲ祝シ又我國民ニ代リテ貴
國億兆ノ幸福ヲ祈ル

大統領答詞

和親貿易ノ交誼ヲ結フ^トニ於テ我カ聯邦ヲ以

テ嚆矢トシタル貴國ヨリ使節ヲ派出シ之ヲ接
受スルニ於テ復其嚆矢ト為ルノ光榮ハ之ヲ竹
帛ニ垂^レテ以我國我カ在職間ノ美事ト為スベ
シ
聞ク今般使節ヲ派出シタル目的ハ全ク貴國君
皇ノ聰明叡智ニ出テ而^レ之ヲ奉行センカ為メ
特ニ閣下ヲ選任シタルハ實ニ感佩スルニ堪タ
リ夫レ國ノ繁榮幸福ハ彼我ノ進益ヲ比較シ互
ニ其長ヲ資リテ以其政治ノ法ヲ改正シ其人權

ヲ尊重シ全國ノ富强ヲ謀ルハ學術ヲ採用スル
 ニ在ルモノナレハ其國ヲ鎖シ外交ヲ為サス坐
 ラ繁榮幸福ヲ受用セント欲セシ時世ハ已ニ過
 去リテ再ヒ歸ラサルナリト思想スベシ
 日本ハ其國ヲ為スル最モ久遠ニシテ我カ聯邦
 ハ一個ノ新國タリト雖モ然レモ我輩ニ於テハ
 故國旧民ノ制度ヲ改正シテ以政治ヲ施行シ頗
 ル其要ヲ得タリ
 抑モ人民ノ富强幸福ヲ享クル所以ハ外國ト交

際シ貿易ヲ鼓舞シ人ノ功勞ヲ尊重シ實學ヲ用
 ヒテ以テ工作技藝ヲ勵マシ國內ノ運輸ヲ便利
 ニシテ以テ來往ノ交通ヲ迅速數多ナラシメ人
 民ノ移住スル者ハ之ヲ愛撫シテ以テ他國ノ政
 俗才藝ヲ網羅シ印書ノ禁ヲ設ケス人ノ信心良
 能ヲ束縛セス法教ヲ寬恕シテ我カ國民ハ勿論
 此邦ノ居住スル所ノ外國人ト雖モ一切之カ制
 限ヲ立タルヲ無キニ依レリ是レ從來ノ經驗ニ
 於テ決シテ疑フヘカラサル所ナリ

閣下奉命スル處ノ公法ノ案件ヲ商量スルコトハ
 我輩ノ甚ク欣喜スル所ニシテ而シテ兩國ノ間ニ
 存在スル蒙ノ貿易ノ交通ヲ脩正スルモ又甚緊
 要ニシテ且希望スル所ナレハ今一層其交ヲ厚
 クスルハ決シテ之ヲ怠ルマシク眞實ニ此ノ美
 事ヲ贊成スヘシ
 閣下親シク予力安寧ヲ祝ス予モ又之ニ答祝ス
 敢テ祈ル此邦ノ駐劄能ク閣下ノ樂趣ニ適シ而
 ノ兩國人民ノ和親交際ノ愈密ナルコトニ帰セシコトヲ

大使新報第四号

公書畧之

畧日記

明治五年壬申二月八日美晴無記事

同九日雪午前十字半大使及書記官三名寺院ニ

赴ク向晚霽ル

同十日晴大久保副使ニ我辨務使館附書記ヲシ

マシ同道ニテパレシトヲヒス及メジカルミ
シユ一ム此博物館ハ往年大統領リゾフルシ
納レテ之ヲノジユ一ムトナシヲ巡覽シスミ
以テ後日ノ記臆ニ供スト云

同十一日晴十二字伊藤大久保副使大統領公

邸ニ別ヲ告ク

同十二日晴風寒シ朝第六字大久保副使小松濟

治叢府途ニユヨ一クラ経テサンフランシ

スコニ抵帰朝杉浦亦隨行シテニユヨ一

クニ赴ク正院及外務行ノ第三号公書翰ヲ小
松ニ附托ス

同十三日陰風猛此日ゼ子ラルマヨル使節ヲ老

兵教育院ニ誘導ノ約アリシガ烈風寒天ヲ以テ

延期ス夜第八字伊藤副使叢府帰朝途又ニ

ユヨ一クラ過キテ大久保副使ト會スルノ

約アリ福地源一郎公務ヲ以テニユヨ一クラ迄

同行

同十四日晴無記事夜雪

大正信報第...

大正十一年

同十五日晴午後第四守府知事クツク氏ヨリ使節ノ為ニ救火隊ヲ發シ旅館前ニ於テ救火ノ操練ヲ調スルニ時間ニシテ去ル夜都見格公使館ニ使節饗ヲ受ク

同十六日義晴風穩ナリ無記事

同十七日陰午前第十一守府ヨリゼ子ラルマヨル来リ大副使以下十三人ヲ誘ヒテ府ノ北東里許ニアル老兵教育院ニ抵ル此地ハ市街繁劇ノ地ヲ離レ地勢高隆全府ノ景ヲ目下ニ占メ

蒸屋モ亦大理石ヲ以テ之ヲ造營ス閣上ニ報國夫之居ト題セリ屋中所養ノ老兵二百三十七名而シテ居室ハ三百余ヲ容レ、ニ足レリト巡覽數刻ニシテ出院里許一學費ニ抵ル乃チ往年戦争後黒奴教育スル為ニ所築ノ學校ニシテ男女ノ教師之ヲ掌リテ黒奴ノ少壯男女共ニ教授ヲ加フ課目ハ讀書習字算術其他諸科ノ學藝ニ至ル今ハ則チ羅甸畿利西語ヲ解スル者十數名アリト此ノ校ハ政府ノ管轄

ニ非ス有志ノ徒黒奴ノ力作ニ由ツテ積ム所
ノ金ヲ集メテ之ヲ建タリト此ノ校ニ對セル
大築屋ハ黒奴操兵局ニシテ服制器械一般常
兵ト異ナルナシ午後二字雨来ル夜八字大副
使府ノ集會所ニ招待セラレ

同十八日雨無記事

同十九日晴大副使書記二人ブルツクス等國務
省ニ抵リ應接アリ此夜大副使以下刺場ニ招
待セラレ

同廿日無記事

同廿一日無記事

同廿二日晴入夜雨来無記事

同廿三日晴大副使我辨務使館夕餐ノ饗宴アリ

同廿四日晴午後第八字当國諸官省官負等ヲ夕
饗ニ招ケリ國務卿ハ其女ノ病ヲ以テ辞宴ス
主客合セラ三十人

同廿五日晴午後ゼ子ラルマヨル大副使ヲ誘ヒ
テパテントヲヒス新奇叢明ノ器械一切此局
ニ入レテ免許ヲ乞テ後ニ

發行^ス故^ニ百般新古ノ器ヲ巡覽ス築屋ノ廣大新
具納^レテ局中ニアリヲ暇アラズ入夜同氏又
器古具雜錯累々枚擧ニ暇アラズ入夜同氏又
来リテ大副使以下十一人ヲ曲馬場ニ伴フ
同廿六日陰午前第十一字大副使以下四人招ニ
應シテ府ノ製本局ニ抵ル局中所蓄ノ役夫男
女合^セテ一千人活字型ノ組立ヨリ摺機ノ運
轉板紙ノ裁作金ヲ粉シ線ヲ拽キ冊ヲ集メ字
ヲ鑄スル等製本一切備ハラザルハナシ其築
屋ノ大ハ推シテ知ル可シ此日三條公ヨリ電

信アリテ曰ク森辨務使ニ全權ヲ委スル云々
不分明再信ヲ要スト因テ又大使ヨリニ副使
帰朝後分明ナルベシト即答ス
同廿七日晴午前十字半^{院下}長及外二人来リテ
本戸副使ニ謁ス午後使節博物館ニ抵ル
同廿八日晴午前十一字使節^院ヲ訪フ西班牙
新公使来リテ初謁ヲ請フ
同廿九日晴此夕大副使及外務大輔ヘール同道
剽場ヲ觀ル招ニ應ルナリ

大使信報第四

五

同三十日霽無記事

三月朔日晴此夕六字各國公使ヲ招キ盛宴ヲ開ク其宴盤饗式ノ整備セルヲ以テ衆皆歡ヲ盡シテ散ス主客合セテ二十三人

同二日晴近日デロシグ氏帰朝ノ告アルヲ以テ其夫婦等ヲ招ヒテ夕譚ヲ開ク大副使ヨリ其婦ニ鬢飾簪具ヲ贈ツテ賸トス此夜大雷風雨

同三日晴肥田阿部等ヒラドリヒヤ府ヨリ帰来ス

同四日晴此夜ヒラドリヒヤ府ヨリノ招待人ゼ子ラルペントル及其他三人ヲ招キテ埋事官待遇ノ謝宴ヲ開ク大使疾ヲ以テ不興

同五日晴無記事

同六日晴無記事

同七日晴風烈無記事

同八日雨午後十二字半ヨリ大副使書記田邊ブルツクス國務省ニ抵リ應接アリ二字帰館ス

○正誤

第三号六葉表面廿四日ノ條ニ國務卿ヒツセル
氏ヨリ云々トアルハ地方裁判判事ヒツセル氏
ノ誤ツナリ

大使新報第五号

公書畧之

畧日記

華盛頓ヨリ

明治五年壬申三月九日晴風烈此日黒奴脱役ノ
期日タルヲ以テ黒奴隊各旗旒ヲ立テ銃劔ヲ
擁シ市街ヲ巡行皆リンコルン氏ノ肖像ヲ旗
上ニ模画セリ黒女髻數百車ヲ驅リ馬ヲ趁ヒ

相共ニ大統領殿前ニ集リ祝砲百發ヲ轟撃ス
今年乃其十回期ナリトゾ

同十日晴風烈無記事

同十一日陰此夜マソニツク場ニ陸軍踊舞會アリ使節事故アルヲ以テ辭會ス

同十二日晴此日正院外務省行ノ公信ヲ緘ス他無記事

同十三日天陰朝八字使節一行盡ク廿九人其餘ハ皆歐洲ニ派出招ニ應シテマヨル氏ト共ニ府ノ海軍局

ニ抵リ海軍總督ニ接シテ直ニ夕ラプーサ号火艦ニ乗ス使節入局ノ時海兵出迎奏樂祝砲十五門ヲ發ス艦發輪シテ行十八里ポトマツク河岸マウントヴェルノシニ投錨衆小漁艇ニ移乗シテ上陸數十歩華盛頓ノ墓ニ詣ス墓ハ磚瓦ヲ以テ築ク鉄柵門アリ戸内ニ白大理石ノ二棺アリ地上ニ安ス右棺ハ大統領華氏左棺ハ其偶共ニ其姓名ヲ棺蓋上ニ銘ス門上ニ額アリテ華氏遺骸存于此中ト題セリ墓ヲ去

ツテ登ル數十歩華氏ノ旧居ニ抵ル古雅質樸
然レ氏瓦磚ヲ以テ造立セル者ニシテ二層樓
十數室アリ當時ノ大家室内華氏ノ古衣旧帽
ヲ掛ケリ又其易席ノ室及佛將ヲ左ツト氏ノ
居室ヲ見ル午後四字半帰局向晚入館此日同行
スル者兵部卿太藏大丞議院次官等ナリテ口
ング氏モ又會ス各其細君姊妹ヲ携フ大藏卿
ハ辞セリ

同十四日美晴風穏無記事

同十五日晴風烈無記事

同十六日美晴風嫩ナリ午後第七字マヨル氏ト
招ニ應テ大副使以下府ノ司天臺ニ抵ル臺ハ
ナシヨナルヲブセルヴェトリト号ヲポトマ
ツク河上ニアリ築立壯大ナラズト雖氏雅麗
可掬臺督サンヅ氏衆ヲ誘フテ測樓ニ登ル三
層上層ニ千里鏡ヲ安ス登降自在樓屋モ亦一
手カヲ以テ鏡ト轉廻スヘシ初メニジュピトル
ヲ窺フ大サ月ノ如シ次ニマルジュルヲ着ル肉

眼一星ヲ做シ鏡裏ニ於テハ二分ス此夜月色殊義月ヲ窺フニ及シテ月体溢レテ鏡ニ入ラズ鏡ヲ廻輪セサレハ全体ヲ全ク窺フ能ズ其中淡黒イ班點山タリ海タル歴々指ス可シ其他測天定時ノ器械盡ク掲ル暇アラズ千里鏡ハ普國ヨリ輸入セル者價万八千元ナリトゾ夜九字半歸館

同十七日快晴午前十一字マヨル氏ト招ニ應シテ府ノ大藏省ニ抵ル卿使節ニ接シ大丞ヲシ

テ衆ヲ誘引セシム租税紙幣出納諸局ヲ巡覽ス易中事ヲ執ル者男女相半シ滿局繁劇ノ際各其分ニ注目シテ寂トシテ聲ナク曾テ雜談或討論等ノ類ヲ見ズ元來府ノ築立廣大ナル事ハ議事院ノ外比肩スル者無シグラナイト石ヲ組立タル四層樓上層ハ造幣局ニシテ幣板鑄刻ヨリ幣紙洗滌次ニ印摺裁割點印整頓ニ至ル迄漁機ヲ以テ動作之ニ與ル男女八百余一紙幣製数十回ノ勞ヲ取ルニ至ル唯幣紙

ヲ製セサルノミ午後二字帰館

同十八日快晴午前十一字副使招ニ應シテ陸軍

附屬傳信局ニ抵ル

同十九日晴炎熱溫度計八十七度今日使節兵部

卿ノ誘引ヲ以テ府中ニ同車游行ス

同廿日晴使節マヨルト海軍局ニ抵リ船槽ヲ見

通常記ニ足ラズ

同廿一日陰廿二日晴共ニ無記事

同廿三日晴午前十一字マヨル大副使以下ヲ誘

フテ府ノ驛遞寮ニ抵ル寮ノ大華府公築屋中

屈指ノ一ニシテ死レツトルヲヒス信局ニ落ル封信一日凡万

余ト云フ局中死信ヲ集メテ開緘其記者ノ名

ヲ檢シ可得復者ハ之ヲ復シ然ラサル者ハ之

ヲ裂キテ製紙所ニ委ヌ名字不分明ニシテ信

中事件緊要ナル者ハ收メテ他日ノ來者ヲ待

ツ等皆課ヲ令チテ男女各地經ヲ按シ細精盡

サ、ルナシ其信書ヲ派出スル等皆局ヲ令チ

テ之ヲ理ス使節府中ノ規則書ヲ得タリ寮ヲ

出テ又勸農寮ニ赴キ寮中一覽百穀鳥獸介蟲ノ種類乾枯セル者盡ク集メテ一樓上ニアリ又一奇觀ナリ下樓シテ寮附属ノ花屋ヲ觀ル玻璃ヲ以テ屋壁ヲ作り花木芬鬱風雪ノ候ハ汽管ヲ以テ暖氣ヲ貯ヘ萋菲ヲ防キ花ヲ醸ス者ナリニ字帰館

大使信報第六号

公書畧之

畧日記

明治五年壬申四月廿九日

千八百七十二年第
六月四日火曜日朝

雨ヲリ午後晴天氣冷濕是ヨリ先キ一等書記

官田邊太一四等書記官安藤忠経特旨ヲ奉シ

今夕第旭字ニユヨクヲ廻リテ帰朝ノ為發軔

ス寒暑針午後一字七十九度

同三十日第五日水曜日昨夜冷甚今朝晴朗有風午後第

一字七十四度今夜ナシヨナルシエトトルニ

招カル演スル所ノ者ハ日本人源次郎ノ輕業

ナリ今朝田邊安藤ニユヨクニ着セルノ傳信

アリ

五月朔日第六月六日晴爽風ナク氣溫和ク覺フ朝

第九字寒暑針七十四度今日午後第三字ヲ以

テ太平洋海郵便ニ公簡ヲ出タス可キヲ田邊安

藤ニ托シ別ニ出タサス当日午後第一字ヨリ

ポトマツク江畔海陸軍及ヒコロンビヤ郡ニ備

ヘタル癩狂院ニ招カル第六字帰館

同三日第八日土曜日微陰炎蒸夕第一字八十五度第一

字使節國務卿フ井シト會議塩田福地之ニ陪ス

事数分時ニシテ畢ル

同四日第九日日曜日微陰炎熱昨ニ殊ナラス合衆國政

府ノ招キニ應シ陸軍將マヤ接待掛官同娘同行

使節以下夕第九字廿五分華威頓立場ヨリニ

ヨークニ赴ク塩田福地ハ特旨アリテ暫時此
行ニ後ル此夜迅雨

同五月^{第十日}雨晴微涼ヲ覺フ第六字半ニユーク
ゼルンノ立場ニ達シ是ヨリ馬車ニ乗り渡
舟ニテホドリ江ヲ横キリ第七字ニユーク
廣街シントニコラス館ニ投入第十字ヨリ出
車一統市中巡覽第三字出車セントラルパー
クヲ巡リ第七字帰館第八字劇場ニ招カレ第
十一字帰館此日不甚暑時々雨降

同六日^{第十日}火曜晴微涼第八字チヤンスウエツヅル

ノ号火輪ニテ突帆第十二字ウエストポイン
トヘ兵學頭コロ子ル、口、カル兵部卿ベルナップ
氏使節及ヒ大将マヤヲ迎ヘテウエストポイ
ント館ニ達ス長野杉浦之ニ陪ス其他ハヲツ
ゼル館ニ宿ス第五字半ヨリ第七字半迄兵學
校ニテ生徒ノ銃隊操練ヲ閱ス凡テ六小隊此
校ハ合衆國政府ノ兵學寮ニテ士官三百人ヲ
育成スヘシ當時二百二十六人ト云フ此間兵

學頭ノ館舎ニテ立食アリ此夜月色玲瓏山月
画ノ如シ涼風入ヲ爽ニス

同七日

水曜日

晴昨ニハスレハ稍熱ス朝第七字

半生徒ノ教練ヲ見第十字ヨリ兵學校ノ検査
ヲ閱シ了リテ兵學寮ノ諸装置ヲ巡覽アリ第
十二字半ニシテ畢ル三般酒ヲ饗ス第五字半
ヨリ同所ニテ輕砲隊ノ教練アリ大砲六門此
間北風忽チ起リ一天俄ニ陰リ暴風迅雷鳴
咫尺ヲ辨セス生徒依然術ヲ了ル雨歇第八字

半破裂彈ノ演習アリ川ヲ隔テ火ヲ焚キ之ヲ
的トス其距離千四百尺時々風起リ中スル者
甚夕稀ナリ次テ烽火アリ樂隊樂ヲ奏ス第十
字ニシテ畢ル

此日ハ生徒ノ試業及第入官ノ日ナルヲ以
テ其親戚等來リ會ス男女夥多旅館ニ充滿
セリ

同

八月

第十三日

土曜

晴涼第十字各々大使ノ旅館ニ集

リ大使以下兵學頭ニ暇ヲ告ケ校下ノ渡船場

ヨリホドソソ江ヲ渡リ第十一字ガリソソ立
 場ニ至リテ半字ヲ過キコロソビヤ号火輪車
 来ル之ニ乗テナイヤカラニ向フ此車ハニユヨ
 ークセントラール鉄道會社ニ屬シ殊ニ此會
 社ヨリ使節ヲ饗センガ為ニ配意シ車中別ニ
 日旗ト華旗ト又接セル者十一對ヲ掛ケ此車
 ニ屬スル小遣等ハ襟ニ小日旗ヲ付ス此車ニ
 テ森少辨務使大將ハソクス妻及ヒ娘来リ會
 シ夜第十一字四十余ナイヤガラ瀑布ノ旅館

インテルナショナルホテルニ投ス此地涼
 氣甚シク外套ヲ掩ハサルヲ得スニヨヨクヨ
 リ四百六十里福地塩田モニユヨクヨリ至ル
 同九日十四日晴第十一字出車大將マヤ紫内處
 處見物ス第四字半帰館第六字前合衆國大統
 領ルモール氏使節ノ招キニ應シテ對食ス
 使節森少辨務使大將マヤ領事ブルツクス福
 地塩田列席ス同行ノ婦人モ列セリルモール
 氏ハ水師提督ペルリヲ日本へ送りシ人ニ

テ初メテ日本ト通信ヲ開クコトヲ建論セシ人
ナリ咲談數時ニシテ畢ル

同十日第十五日晴微温朝第七字半前田ト同車

ニテナイヤガラヲ最シ第五字半セン子クト

デーニ至ル森辨務使バンクス妻娘ハ直子ニ

ホストンニ至ルヘキヲ以テ暇ヲ告ケ我使節

ハ北ニ折レ第七字サヲトガニ連シグラント

ユニラン館ニ投ス此處ハ有名ノ藥泉アリテ

夏時避暑ノ地ナリ

同十一日第十六日晴寒温適度朝餐前各旅館ヲ

出ラマングレス、オートノ藥泉ヲ飲ム直子ニ

旅館ノ前ニ在リ第十一字出車サヲトカ湖ニ

至ル湖亭ノ主人モーン氏馬鈴薯ノ油揚此處ノ名物

及ヒ三般酒ヲ饗ス此日大將マヤ病アリテ同

行セス

同十二日第十七日晴天氣温ナリ朝第八字半サヲ

トカヲ發シホストンノ轍路ニ依リソトアク

シヨニニトホスヨリ十五六里ボストン府ノ接

待掛数名ニ案内ヲ受ケレウエールハウスニ
館ス着セシトキタ第八字森及ヒバンクス夫
妻ニ會ス

同十三日第十八日晴朝第十字出車接待掛案内市
中ヲ巡覽ノ第一字帰館二字二十分出車天下
太平樂府ニ至リ第四字奏樂始マリ第七字帰
館第八字十分グロ劇場ニ至リ第十字十
五分帰館此日サレフランシスコヨリ電信来
リ小松憲盛本朝ヨリ到リ因テ田邊安藤サン

フランシスコニ滞在シ尚命ヲ俟ツト此日使
節大將バンクス氏ニ逢フ

同十四日第十九日水曜晴第八字接待掛案内ニテ發車

第八字ロング、ウワルフ波戸場ヨリ收税官リ

ユツセル氏ノ招キニ應シハラニング号徴貢

船ニ乘リ港内ヲ巡覽シ船中ニテ酒菓ノ饗應

アリ第十二字過キ帰館午後第二字半ヨリ出

車再ヒ太平樂府ニ赴キ第七字帰館

同十五日第二十日水曜晴温氣甚タシ寒暑針七十六度

ヨリ九十五度ニ至ル朝第九字出車接待掛祖
送^レポストン、エンド、アルバニ^レ轍路ニ依リ第
十二字スプリング、ヒールドニ達ス市正區長
參事及ヒ造兵局ノ官員迎、マサワト、ハ
ウス旅館ニ入ル^レ此館ハ魯西亞公子ア
ソ晝餐シ第一字出車造兵局ノ鍛冶場ヲ巡覽
シ了リテ之ヨリ一里強細工場ニ至ル祝砲十
五發アリ其局内ヲ巡回ス次テ武庫ニ至リ巡
回ス此造兵局ハ軍時ハ一日ニ一千挺ヲ製ス

ベシ且武庫ニ備フル者一百二十万挺アリ了
リテ士官及ヒ市負同道區長ホーワルトノ家
ニ招カレ三般酒及ヒ菓子ヲ饗セラル此家ハ
当市第一ノ富商ナリ第五字帰館晩餐ノ饗應
アリ市正スプー子ル演舌了リテ諸員使節ヲ
送り第七字發軔第十二字六分ニヨクシ
トマコラス館ニ着ス此日郷信アリ直ニ之ヲ
分配ス蓋シ歐羅巴ヨリ廻ルモノ
同十六日 第二十一日 晴天氣甚夕暖ナリ無事夕第

六字二十五分ワシントノ立場發軔

同十七日日第二十日晴第七字華盛頓ニ達ス此兩

三日前田邊安藤ヨリ暗号ノ電信ヲ送ル蓋シ

小松燾盛力使命ノ趣旨ヲ約言スルナリ今夜

國務卿ヲ井シ避暑養生ノ為メ当地ヲ去リボ

ストシニ向フ

同廿二日日第七日天氣適宜夕第四字八十度午後

第三字小松燾盛サシラシスコヨリ着ス

同時日本在留字滿士公使ヲオシ、ブランド同

英代理公使アーダムス來着使節ヲ訪フ田邊

安藤ニ再々當處ニ歸ルヘキラ電信ス

同廿三日日第二十七日天氣甚夕温カ寒暑針九十二

度午十二字英代理公使アーダムス來訪午後

木戸副使字使ヲ訪フ

同廿四日日二十九日晴温氣同昨午前十字使節英

使アーダムスニ接ス午後十二字ヨリフオン

ブランドニ接ス

同廿五日日第三十日晴温氣昨ニ過ク午後第一字寒

暑針九十四度夕第六字当館ニ於テ使節英使
アーダムス及ヒ字公使フオンブランドヲ饗
ス夜第十字ニシテ畢ル之ニ列スル者福地源
一郎塩田篤信小松燾盛是ナリ

同廿六日第七月一日晴温氣午後第一字寒暑針九
十六度午後第二字フオンブランド氏大使ヲ
訪フ今夜兩公使ニヨークヘ發軔

同廿七日第二日晴昨ニヨーク市中寒暑針百零
四度当地今日九十九度サンフランシスコヨ

リ電信アリ云ク田邊安藤米金曜日ヲ以テ發
シ来ル第十二日当地ニ着ルベシト本日渡邊
洪基願ニ依リ歸國ヲ許サル但御用ノ儀アリ
テ来第八月便ヲ以テ發スヘキヲ命セサル

同廿八日第三日晴炎熱甚クシ寒暑針午後第一
字百零一度昨日ニヨークニ於テ暑ニ中テ死
スル者五十四人当地ニテ六人アリ牛馬ノ類
モ亦多シ本日午後第十二字肥田造船頭長野
桂次郎ヒラデルヒ井ヤニ發足ス

大使信報第七号

同廿九日第四日本曜日晴温氣稍和ナリ午後第一字九
十度本日亞米利加獨立ノ日ナルヲ以テ万民
業ヲ歇メ歌樂ノ聲處々ニ聞ヘ今夜處々ニ烽
火アリ

大使信報第七号

公書畧之

畧日記

明治五年壬申六月十五日晴午後第一字大副使
書記田邊及ブルークス國務省ニ抵リ卿ニ會
シテ應接アリ此夕小松福地命ヲ受ケテピツ
ツボルグニ蒞ス

同十六日晴無記事

同十七日晴午前五字半大久保伊藤二副使書記

大寺島外務大輔書記鈴木岡田近藤其他留學生數名

入府六字阿林敦逆旅ニ投ス午後三字大副使

國務卿ニ其省ニ會シテ應接アリ

同十八日

同十九日晴大副使書記田邊太一塩田萬信小松濟治杉浦和藏及森

辨務使之ニ陪シテ大統領公邸ニ抵リ別ヲ告

ケ演書ヲ開キテ互ニ離別ノ應答辞アリ共ニ書ニ

卷示

訪フテ之ト會談アリ塩田書記之ニ陪ス

同廿日晴此日大副使当國各省長官及各國ヨリ

在留ノ公使ヲ尋問シ別ヲ告ク各國公使ノ内

告別ノ為来ルモノアリ皆刺ヲ投シテ去ルノ

ミ此夕第七字当國各省長官次官ゼ子ラルマ

ヤ等ヲ招請シ別讌ヲ開ク大副使ノ外陪席ノ

モノ寺島大辨務使森中辨務使及ヒ書記官田

邊塩田福地杉浦安藤鈴木ブルックス等ナリ讌

了テ晤語十二字ニ至リテヤム此日第八字何
禮之林董兩書記命ヲ奉シテ英國ニ先發スコ
レ一ハ彼國到着ノ節ノ用意ヲナシ一ハ此程
新定ノ禮服ヲ調セシガ為ナリ

同廿一日晴午後微雨此朝マヤ来ルヒラデルヒ
ヤニテジエークウク使節ヲ自宅ニ招請スベ
キ旨ヲ述フ此夜森辨務使其公館ニ於テ使節
一同ニ送別ノ宴アリ大副使ノ外寺島田邊益
田之ニ陪ス福地病ヲ以テ預ラス宴了テ夜會

アリ自他ノ書記理事官ヲハシメ本府ニアル
我國生徒男女悉ク會セリマヤブルックランマ
ン亦来レリ

同廿二日晴夕五字華盛頓府ヲ發スマヤ及コロ
ンビヤ知州事クウク此人ジエークウク及ジエトクウク
ノ息案内トシテジエトクウクノ家ニ赴カント
ス森辨務使モ亦陪セリ獨伊藤副使福地小松
兩書記事アルヲ以テ猶本府ニ滞在シ直ニ紐
府ニ赴カント擬セリ寺島辨務使及ソノ一行

ノ者モ直ニ紐府ニ赴キ以テ英國ニ航セント
ス第六字ビラデルビヤ西站ニ至ル是ヨリ車
ヲカヘ行八里クウクノ邨莊ニ達ス夕饌ノ饗
アリ主人未帰ヲ以テ弟クウク假テ坐ヲ占
ム此主人クウクナルモノハ米國著名ノ豪富
殊ニ南北戦争ノ際頗ル政府ニ功アリ今猶ホ
ルストナシヨナルバンクノ長トシテ政府ノ
財政ニ參カリ居レリ且其人トナリ伏羲好施
尤善國ノ為ニ利ヲ興スコトヲツトム方今又

北方ニ新軌路ヲ築キ太平海ニ達シ亞細亞各
國ニ通スル一航路ヲ開カント擬ヤリ此軌路
ハ現今ノモノニ比スレバ地ノ低キコト四百
尺ヲ過ク故ニ緯度稍高シトイヘトモ却ラ阻
雪ノ患ナク殊ニ北方ニ偏シ地球小圈ヲ航過
スルヲ以テ航路モ亦若干百里ヲ減シ得ベシ
トイフ此夜ハクウクノ宅ニ止宿ス宅ノ結構
壯麗一大客店ニ齊シ客四十余人ヲ宿ヤシム
ルニ足ルトイフ

同廿三日晴朝微雨アリ主人クウク今晚ヲ以テ
 帰来レリ曰ク石炭坑ヲ検査シ山ニ入ルコト
 十五里汽車発軛ノ期ヲ失シ迎接ヲ錯ルヲ致
 セリト朝大使外三五名主人ノ誘ニ從ヒソノ
 寺ニ賽ス又ソノ墓田ヲ一見ス疊ニ大理石ヲ
 以テシ壯麗目ヲ驚カセリ此日終日一行ノモ
 ノクウクノ家ニ在テ各自庭園ヲ逍遙シ皆歡
 ヲ盡セリ此夜猶ソノ家ニ宿ス此地氣候大ニ
 華府ニ異ニシテ清凉殆ント我仲殊ノ候ニ比

ス花氏寒暑針上ルコト七十八度ニ過ス此夜
 使節更ニ前謀ヲ改メ費府ニ兩日滞在セシコ
 トヲ決ス是細府波府ト同シク招請アリシヲ
 同府ノミ無沙汰ニ過ンコト偏頗ニ類スベシ
 トノ議ニヨレリ即時電信ヲ以コレヲ談府ノ
 市廳ニ通セリ
 同廿四日晴朝餐後第九字クウクノ家ヲ辞シ汽
 車ニ就ククウク兄弟コ、ニ於テ別ヲ告ク暫
 時ニシテ費府ニ達シコンチ子ニタルホテ

大佛傳報第...

ニ投ス午後市中議院ノ長官某其他數十人來
訪セリ即使節ヲ誘シジラルトノ義學ニ至ル
生徒六百人ヲ容レベシトイフ遂ニベルモン
トパークニ至リ市中ニ分派スル為機ヲ設ク
水ヲ高处ニ貯フル処ヲ見ル薄暮パーク中ノ
一亭ニ於テ夕饌ノ享アリ主客各壽詞ヲ述フ
ソノ宴盛羨ナラストイヘトモ簡易礼教ヲ省
キ友情却テ厚キヲ覺フ蓋シ本府ノ招請ヲ受
ルコト昨夕ニ決シタルヲ以テ今朝漸ク電報

ヲ得草率ノ用意ニ出ルヲ以充分ノ礼ヲ盡ス
不能コト遺憾ナルヨシ人々皆ソノ謝詞ヲ述
タリ此夜マヤソノ室ノ病アルヨシノ電報ヲ
得タルヲ以使節ヲ送り波府ニ至ル能ハザル
旨ヲ述ヘ辞シテ華府ニ歸レリ因テ為ニ寓舎
ニ於テ一別筵ヲ設ケラレタリ
同廿五日晴本府民ノ誘ニ從ヒ獨立布告ノ古跡
ヲ訪ヒ遂ニ牢獄ヲ一見アリ建築ノ壯固制度
ノ具備實ニ善美ヲ盡セリ中央ニ一廳アリテ

七長廊蛛網状ヲナシテコレヲ繞ルソノ廳ニ
坐スルモノ一囑シテ其廊ヲ見透スベク作レ
リ廊各二階兩側ニ房アリ一房各一罪人ヲ容
ル房数千ニ餘ルトイヘトモ今現ニ在牢ノモ
ノ六百人餘ナリトイフ歲報書數部使節ニ今
贈セリ本府製造ノ盛ナル米國ニ冠タリトイ
フモ可ナリ獨缺機等ノミナラス布帛羽呢織
造ノ場亦具ラサルナシ一府人日ク人多クイ
フ米國物本ニ富トイヘトモ人エ未タ足ラス

故ニ布帛羽呢ヨリ以テ香鹼香水ノ徴ニ至ル
マテ皆コレヲ歐洲ニ資ルト然ルニ其實ハ本
府ノ製出スル所トイヘトモ頗國民ノ求需ニ
應スルニ足レリ況ンヤコレニ陪スニニラキヤネ紐波兩
府其他ヲ以テスルヲヤ但如何ニヤシ國民未
夕家鷄野鶩ノ僻見アルヲ免カレズ不得止本
府製出スルモノトイヘトモ一旦コレヲロンボ蘭墩
其他歐洲ノ都會ニ輸シ而シテ後再ヒコレヲ
本國ニ輸入シソノ名ヲカリテ國民ノ好ニ投


スソノ為口税ヲ課セラルトイヘトモ本府ヨ
リ發賣スルモノニ以スレハ價モ貴ク且消售
スルコト早シ故ニソノ跡毎ニ他國ニ資ルモ
ノ、如シ可笑可憾ノ至ナリト此言果然リマ
否ソノ徵ヲ得ストイヘトモ新建ノ國或ハ如
是ノ弊ナキ能ハサルモ理リナルベシ午後三
字半發寓五字發勅森辨務使病ヲ以テ猶本府
ニ在リ醫スローンソノ病ヲ看ルヲ以テ同シ
ク滯留ス汽車トレントン、ニウグロンスウイ

キラ過細府ニ達ス河ヲ渡リジントニコラス
ホテルニ投ス夜九字半ナリ伊藤副使寺島辨
務使外書記官等皆來會ス但伊藤副使ハ福地
小松兩書記ト共ニ別ニウエストミンストルホ
テルニ宿セリ
同廿六日微陰午後得雨朝十字大使以下本府紳
士ノ誘ニ從ヒアストルノ書庫ニ至ル書庫ノ
長歳報書數部ヲ呈セリ且曰ク嚮ニ魯國皇子
ノ來ルモヨレヲ呈スルコトナシ獨リソノ社

中ノ為ニスルノミ然ルニ今特ニコレヲ日本
使節ニ奉スト夫ヨリ各國語ヲ以テ繙譯刷印
セル福音書ヲ發兌スル書庫ニ至リ少年游息
所及ヒ肢体不遂ノ児童ヲ治スル病院ニ至レ
リ現ニ院ニ在モノ男児女児各半百三十四人
アリ一男児アリ足踵攣急シテ跟地ニツカサ
ルモノソノ趾後ヲ割リテソノ筋肉ヲ緩メン
ト計レリ今方ニ治療中ニアリ一女児アリ十
一年ノ間行歩スル能ハサルモノナリシカ入

院十五ヶ月ニシテ既ニ數武ヲ歩スベシ之ヲ
試ミルニ果然リ次ニ中道缺軌站ヲ見ル結構
ノ壯大行李攬卸ノ便易亦各邦ニ罕ナル処ト
イフ夫ヨリ「テレホン」新聞紙局電信局ニ至リ
試ニクレートブリタニーカムプト駐十
里華府ト
ニ通信ス皆瞬息ニシテ答詞来リ使節ノ平安
着府ヲ賀スル趣ナリ夫ヨリ「ステワルト」兵服
店ナリニチ「寺」ニ至ル此寺ハ本府最
旧ノモノナリ此日寺島
辨務使ソノ書記鈴木金蔵岡田凌雲近藤真鋤

等ト当港ヨリ郵船ヲ搭シ英國ニ發ス
 同廿七日雨入、夜晴朝大副使以下クラフリン、吳
 服店及ハ一ボル新聞紙局ヲ一覽セリ森氏ヒラテ費
 府ヨリ來着病少間ヲ以テナリ、此日昔年日本
 ニ在留セル公使ハリスヲ川路書記ヲシテウ
 ニオンクラブニ尋問セシメ我使節面會ヲ欲
 スルノ意ヲ述シムル処同人避暑不在ニ會セ
 リ午後四字發寓フールリウアルデポーヨリ乘
 船ス船号プロヒゲンシ、乘船ノ時マヤ復來

會ス船中房室ノ設飲食ノ美人ヲシテソノ船
 ニ在ルコトヲ忘レシムルニ足レリ伊藤氏福
 地小松兩書記及會計ノ諸吏員猶事ヲ以テ本
 府ニ滞在セリ
 同廿八日晴曉五字  達ス上陸汽車ニ就
 ク八字波府ボストンニ着シレウヱリハウスニ扱ス府人
 迎接者皆會ス十一字府廳州廳議院ヨリ博物
 觀諸學院ニ至時盛夏放學ノ會ニ在ルヲ以テ
 化學博物學トモニ皆ソノ教導ノ状ヲ見ルコ

大英信報第七

ト能ハス然レトモ教官在者聊ソノ伎ヲ試ミ
以テ使節ノ覽ニ供セリ夫ヨリ消火具ノアル
所ニ至リ馬ヲ消火具ヲ載ル車ニ駕スルヲ見
ル馬鐸聲ヲ聞各自馳テソノ轅軛ニ就ク僅ニ
十七八秒時ヲ費スノミソ、神速驚クベシ此
夜本地紳士ヨリ客寓ニ於テ大饗讌ヲ呈ス獻
立目錄ニ日本語ノ譯ヲ施シ盤上ノ飾リ物等
尤心ヲ盡セリ主客各壽詞ヲ述フ了リテ客寓
ヨリ失火ノ報ヲナス各所消火丁各車ヲ馳テ

使節所寓ノ窓下ニ至リソノ消防ノ体ヲ演ス
此日川路寛堂ニウヨウ細府ニウヨウヨリ来ル夜ニ入田中光顯
以下會計吏員亦来ル
同廿九日朝微雨晴昨夜十字伊藤氏福地小松兩
書記来着此日大副使以下ラウレンス及ラウ
ウエル織造局一覽アリ府ヲ距ルコト廿五里
二等書記官長野桂次郎三等書記官川路寛堂
各其職務ヲ免セラレ改テ工部大蔵理事官隨
行ノ命アリ吉雄永昌大蔵理事官隨行被免細

府ニ由リ國債券紙幣監造ノ命ヲ奉セリ由利
公心以下此夜桑滂ヨリ來着ス

米國大統領へ告别ノ節大副使ヨリ演述
左ノ通

天皇陛下ノ欽命ヲ奉シ我國ノ事情ヲ親シク
陳述シ是迄兩國ノ間ニ存在セル友睦ノ情誼
ヲ猶モ厚カラシムル様貴國政府ト商議セン

タメ貴國ニ來リシニ貴國政府オヨビ人民ノ
協力アリシヲ以テ容易ニ此意ヲ達スルヲ得
タリ殊ニ羈留ノ間絶ヘス朝野士庶ノ優遇歎
待ヲ辱フシ斯ク一般ニ懇親ノ情誼ノ厚キヲ
見レハ合衆國人民ハ實ニ我日本ノ開化ヲ助
クルヲ願フノ意衷深ク知ルニ足レリ加之貴
邦政治風俗ノ美ヲ親睹シテ裨益ヲ得ル事尠
カラス是皆閣下ノ賜ニシテ此ヲ我 天皇陛
下ニ奏上セハ必ス満足アラシム事疑ナシ今ヤ

政府ノ命ヲ奉シ歐洲ニ渡航スルノ斯ク迄ニ
アレハ辱ナク閣下ニ謁シ我 天皇陛下オヨ
ビ國民ニ代リ此謝詞ヲ申述ルヲ得ルハ我輩
ノ光榮何事カ是ニシカン此序ヲ以テ閣下ノ
康寧ヲ祝シ共テ貴國民庶ノ幸福ヲイノル

大統領グラント氏ノ答詞

日本天皇陛下ノ交際使節タル諸君ト分袂ス
ルハ我曹ノ遺憾ニ候諸君ノ等級ハ是迄合衆

國ニテ引接セシ諸使臣ニ比スレハ最モ高貴
ノ人々ナルヲ見レハ是ヲ沁出セラレタル貴
國ノ 君上ハ此國ト日本トノ貿易ノ通交ヲ
懇親ナラシメン事ヲ重大ノ要兮ト看做玉フ
事判然ナリ諸君モ是迄コノ通交ヲ万全ニシ
テ盛大ニ進メント著意アリテ既ニコレテ實
踐スル為ニハ信切ナル好期ニ遭際アリシ事
ト思ハレ候イマ仮令此目的ヲ成就セザルト
モソハ決シテ我方ニ於テ厚誼ニ欠ル所アル

ヨリ生スルトスベカラス又将来日本へ對シ
其信ヲ失フ事ナリトモスベカラス到底現時
貴國ノ銳意ナルニ是迄成功ノ盛運ナルトニ
ラ其目的ヲ達スルニ妨碍有之間敷ト存候且
諸君当地ノ滞在ハ愉快ナリキトノ旨ヲ聞キ
頗ル満足ニ候我國ノ政体オヨヒ人事ノ交際
ハ迥ニ貴國ニ異ナルヨリ或ハ裨益トナリ難
キ処モアルヘケレトモ之ヲ見聞シ之ヲ審問
スルハ諸君ニ恥リテ其効績アリシ事ユレヲ

疑フマラモナシ諸君是ヨリ歐洲ニ於テハ愉
快ヲ得且外國通交ニ付貴國ノ幸福ヲ無欠ノ
金匱ヲラシムルニ緊要ナリトスベキ諸君ノ
目的ヲ前途ニ於テ成業アラシム事ヲ信ス

大使信報第八号

大使信報第八号

公書略之

略日記

明治五年壬申七月朔日晴午後領事ブルツクス
ノ請ニ應シ使節一同ソノ親族ノ方ニ歴訪セ
ラル最初ブルツクス亡父ノ家当時ソノ姪父
主管セル方ニ至リ夫ヨリ外親族ヲ訪ハル酒

大使信報第八号

兼ノ設等アリ薄暮帰館

同二日晴此日本府士民ノ請ニ應シ使節ノ内西
手ニ分レ一ハ木戸伊藤兩氏本府接待掛リノ
モノ十余人同道ニテホトソシニ至リソノ里
ノ役所ニテ午餐ノ饗アリ會合ノ男女二百余
人里長及接待掛リ各壽詞ヲ述フ夫ヨリ造履
工場ニ至リ又出来合ノ衣服工場ニ至ル裁縫
皆漁機ヲ用ユ所役男女五百人許一ハ大久保
山口兩氏此又敷工場ヲ歴覽アリ多クハ鉄釘

鉄器ヲ製スルモノナリ
ニ午餐ノ饗アリ

リ此地ハ提督ベルリノ生里タルヲ以テ日本
入ヲ遇スルコト殊一厚ク饗中壽詞亦ソノ意
ヲ述タリ大使ハ病ヲ以テ在館アリゼ子ラル
パンクス及当國在留英國公使來訪大使ニ見
ヘ別ヲ告ク英國公使ハソノ渡英ノ期ニ後レ
兼テ期セシ如ク充分ノ接待行届クマジキ旨
其政府ヨリ報告ヲ得シ由ヲ告ク遺憾ナル趣
ヲ述タリ此日当國外務尚書フィシ及ゼ子ラル

マヤニ使節ヨリ書ヲ送リテ在留中ノ邂逅ヲ
謝セリ又当國在留士其公使ニ書ヲ送リテ
歐洲巡行ノ序ソノ國ニモ書記官ヲ差シソノ
國光ヲ觀レコトヲ希フ其旨ヲ述フコレソノ
初メワシントシ府ニ在ルトキ同公使ヨリ申
出シ旨アルニ基ケリ且又ニウヨークニアル
トウシヤセシドハルリスノ許ニ書記官ヨリ書
ヲ送ラレ面會ヲ得ザルコトノ遺憾ヲ述フ是
ハ最初日本ニ来リシ当國ノ公使ニシテ且

千八百五十八年結約ノ全權タリ故ニ挨拶ア
リシナリ又同府アストルノライブラサーニ
遺書シテ其月刊書ヲ送リシヲ七謝セラレ今
夕第十一号公信ヲ郵局ニ附ス
同三日晴朝第九字ボストン埠頭ヨリ火艇ニ駕
シキユナルト社中郵船オリンハス英船号ニ移駕
ス此日本府下院議長ライスヲ初メ接待掛リ
ノモノ其他紳庶男女百数人大小七隻ノ火艇
ヲ迄へ使節ノ乗船ヲ乗廻シナガラ旗ヲ掲ケ

大使信報

三

鼓ヲ撃テソノ啓行ヲ送レリ一官船ノ此ハ此
ノ船及港中砲台ヨリハ各祝砲ヲ發セリ港口
ニ至リライズ以下皆使節ノ乗船ニ於テ小窓
ヲ設ケ其啓行ヲ壽シ祝詞ヲ述フ使節亦コレ
ヲ答謝アリ此日海波平穩

同四日陰

午測 北緯 四十二度二十八分
西經 六十五度四十四分
ホストンヲ距ル二百三十里海上平穩只濛霧

海面ヲ掩フテ咫尺ヲ辨セス郵船時々蒸笛ヲ吹ク

同五日朗晴

午測 北緯 四十二度四十三分
西經 五十九度三十七分
昨測ノ所ヲ距ル二百七十六里海波最穩

同六日陰

午測 北緯 四十三度五分
西經 五十三度廿七分

大東洋航路

昨測ノ所ヲ距ル二百七十二里海波最穩

同七日陰

午測
北緯 四十四度〇八分
西經 四十七度四十二分

昨測ノ所ヲ距ル二百五十八里海波平トイヘ
トモ風左側ヨリ来ルヲ以テ船頗ル蕩ス

同八日晴

午測
北緯 四十六度〇三分
西經 四十一度四十六分

昨測ノ所ヲ距ル二百七十六里有風浪頗ル高
シ寒冷秋初ノ如クナラス

同九日晴

午測
北緯 四十七度三十分
西經 三十五度廿四分

昨測ノ所ヲ距ル二百七十六里此日順風ナル
ヲ以テ三播共ニ帆ヲ張レリ船頗ル蕩ス

同日晴

大使信報卷八

舟傳信書

午測 北緯 四十八度五十三分
西經 二十九度十二分

昨測ノ所ヲ距ル二百六十二里風浪昨ノ如シ

同十一日晴

午測 北緯 五十度十四分
西經 二十三度一分

昨測ノ所ヲ距ル二百五十里風逆ヲ以テ帆ヲ
收ム船尤蕩ク

同十二日雨

午測 北緯 五十度四十九分
西經 十六度三十三分

昨測ノ所ヲ距ル二百五十里

同十三日陰雨午前十字陰霧中アイerland地
方ヲ舩左ニ見ル午後三字クインスクウレ港
口ニ暫時舩ヲ留メ一火舩来リテアイランド
ドニ上陸スベキ旅客及信書ヲ攬ス此時寺島
大辨務使ヨリノ電報ヲ得タリ曰クリウルポ
ルノ士民日本使節ヲ饗セントノ念アリ然レ

大辨務使ヨリノ電報

〇六

トモ政府ノ引合肝要ナレバコレヲ後日ニ期
 レテ直ニロンドンニ赴カレシコトヲ望ムト
 同ト四日晴朝十字過リウルポール港口ニ達ス
 引水者ヲ待コト久クシテ漸ク港中ニ入ル英
 國政府ヨリ日本使節ノ接待ヲ命セラレタル
 ゼ子ラルアレキサンドル及同國日本公使バ
 ークスノ書記官アストン小火艇ヲ以テ迎接
 ス 鮫島中辨務使吉田大藏少輔林二等書記官
 其他在英ノ生徒教輩皆來迎ス上陸ノ節地方

官廳ヨリ禮車ヲ具シテテレヲ客館ニ送ル五
 字過夕餐ヲ了リテ直ニ汽車ニ駕シロンドン
 ニ赴ク夜十一時半ヲ以テ同府中ト吉南門ツボ
 ギンダハパレースホテルニ投テ寺島弁務使ハ
 ムダグーパレースホテルニ投テ寺島弁務使ハ
 汽站迄迎接シ客館ニ送リテ帰ルパークスモ
 亦來レリソウルボートニ饗應ノ事ハアレキサ
 ンドルヨリ既ニ政府ノ命ヲ以テ見合サシメ
 シヨシナルバ此ヨリ別ニ断リニ及ザリシ此
 夜第廿二号公信鮫島ヨリ落手ス

同十五日晴朝十字アレキサンドル、ハークス来見海陸長途ノ勞ヲ慰スル為メ一同休息ス

同十六日晴午後一字本國コンラウエ外務卿ノ宅ヲ專問アリ彼ヨリ使節ノ旨趣ヲ問ヒ且條約ノ談判ニ

涉ルベキヤ否哉ノ問アリ大使是ニ答へ先謁見ヲ乞フノ旨ヲ述ラル此夕七字同入ヨリ夕

膳ノ招アリ大使副使塩田篤信赴之膳了リ同入同道ニテサウスケンシングトンノ博覽會

ヲ一覽ス

同十七日晴パークスノ誘ニ應シ本府ウイリヤヲ發シブライトンニ赴ク此地ハ暑中遊覽ノ

地ニシテ即今名公鉅卿多ク此地ニ在レハ遊覽旁其ノ人ヲ相見シ為メナリ同所ニ午餐シ

學校博物觀ヲ一覽ス學校ニテ恰地學ヲ講セシ時ニシテ方ニ皇國東京ノ様ヲ説クヲ講

師席ヲ避ケテ更ニパークスヲシテ皇國今日ノ形勢ヲ説カシム前香芬ノ總督ニテ有名

ナリシシヨシボーリンクモ来會ンパークス

ニ次ヲ講坐ニ登リ支那日本ノ比較ヲ講セリ
薄暮歸館陪者填日新浦西書記ナリ

同十八日晴午後三字当府知事パークス同道來
訪三字半大使及木戸副使当國皇族及公卿并
各國在留ノ公使ヲ應訪アリ皆刺ヲ投シテ帰
ルアマバサドルハ彼ヨリノ尋問ヲ受ルコト公
法ナル由チレドモ今ハヲシナヘテ新參ノモ
ノヨリ問訪スルコトクナレルヨシパークス
アレキサンドル等モイヘルコトアルニヨリ

ワシントン府着ノ節トハ其式殊ナリ此日法
國公使館記室シヤルジタフヘールノ名ヲ以
テ來訪刺ヲ投テ去ル

同十九日晴三等書記官大原令之助被免魯西亞
アマバサドル廻礼トシテ來訪ス刺ヲ投テ去
ル西班牙公使來見ス日耳曼少辨務使及瑞諾
公使館書記官少辨務使ノ名ヲ以テ答礼シテ
相越ス皆刺ヲ投シテ去ル

同廿日晴荷蘭辨務使來見其國ニモ御巡聘可相

九月信報

成ニ舟右時期承知致シ度旨ヲ述フ第十二号
公信郵局ニ附ス

同廿一日陰山田理事官ハリスヨリ来ル本國司
法長官ヨリ留守中御答礼トシ參上致兼ル旨
アレキサンドル迄申越セシ奈同人ヨリ申立
ル

同廿二日陰雨第十三号公信及無号公信トモ郵
局ニ附ス伊藤副使ヨリシールトへ書ヲ送
リ其帰朝ヲ命シ候事

同廿三日晴午後三字半五使アレキサンドルハ
一クスアストン同道ブランドホルトニ發程
アリ林董陪之此夜同所一泊

同廿四日晴五使ブランドホルトニ在リ操兵ヲ
一覽アリ了リテ薄暮ホルツモウスニ着同所
マンシヨシホルルニ一泊田邊ハ一兩親王
御事ハ過日菅國ヨニ陪シ其他数人ト共ニ午
後ヨリホルツモウスニ赴キ使節ニ會ス

同廿五日晴午後第一字本地在留海陸軍將宅

大東書院

ヲ訪フ海軍將ニテ午餐ノ饗アリ五使兩親王

書記二人 田辺 杉浦 肥田理事官外数人預之主人

ノ外甲比丹某ニ陪之夫ヨリヂクオフウ

イルリニグトノ号船ニ至ル是ハ古風ノ製色

ニルラ今ハ只海上ニ繫碇シテ海軍操演ニ備

ルモノナリ水卒大小砲ノ演習又擊劍ノ坐作

等ヲ見終ニ標ヲ海沙中ニ立テ裝弾命中スル

ヲ見ル彈裝了リテ將ニ照準スル時ニ中ノ機

ヲ設ケテ故ニ其船ノ蕩揺シ其風浪中ニアリ

テハ精細ニ視準スルコトヲ習ハシム船ヲ下

ツテ埽石ヲ製スル所ヲ見ル役夫八百人トイ

フ皆刑徒ナリ又造船場ニ至ル現ニ兩池アリ

今將ニエヲ肇メホ夕成サルモノ四ソノ石木

ヲ運輸スルガ為假ニ鑿轍ヲ敷ケリ其長廿四

里其建築ノ大知ルベシ池中一新發明ノ鑿船

ヲ造フホ夕功ヲ畢ラサルモノナリ兩活圓臺

アリ皆裏ムニ鑿ヲ以テシ厚サ四寸ニ及楯各

大砲六門ヲ裝スベシ皆機ヲ設ケテ其圓臺ヲ

運動セシムベシ船身亦鉄甲ヲ装ヒ大丸ハ水ニ没セリ喫水甚深カラス是敵弾ヲ避ケ又淺瀬ヲ涉ランカ為ナリ薄暮帰館

同廿六日晴午後懸山パークス同道一同ユンケ
ロル号船ニ至ル此所此海口繫在ノ海軍水卒ヲ置所トス且此船ハ名将子ルソノ戦死セシ船タルヲ以テ其故物遺書ヲ蔵シアリテ好古愛國ノモノハ男女士庶ヲ問ハス来テコレヲ見其奮勇死戦ノ迹ヲ吊フモノ多シ今船中

ニ存スル書柬ハ其右腕ヲ失ヒシ後ノ手書ニ係ル文字潦草ナラス英爽ノ氣千載如生トイフベシ夫ヨリ火艇ニ駕シテ
鉄甲大艦ナリ五櫓ヲ立廿六門ノ大砲ヲ装千三百五十馬力ノ機揚ヲ装フトイフアドミラルホンバーノ乗船ナリロソチノ饗アリ此船ニ中御門寛磨乗組タリ同式ノ船此海口ニ在ルモノ三隻夫ヨリ
号ニ至ル亦鉄甲ナリ稍前ノモノヨリ小ナリ砲門屈曲シテ舷ニ

沿フテ發火スヘク造レリ伊月一郎此船ニ乘
船今現ニ士官ノ一ニ列セリ船ヲ下リテ港口
ノ一砲台ノ一ソノト名クルモノニ至ル薄暮
歸館

同廿七日晴朝陸軍ノ操演アリ入數僅ニ千人
許セ子ラル方ニテ午餐ノ設ケアリ五使兩親
王杉浦陪之了テ兵卒屯所ヲ一覽アリ夕七字
同所發車同十字半ロンドンウイリヤニ着寓
館ニ歸ル

同廿八日晴第二字兩親王同道大使禽獸園へ被
相送此日アレキサンドル午後巡遊ノ場所手
續等ヲ申立ル

同廿九日晴陰不定第三字波斯公使来リ名刺ヲ
投テ去ル

同晦日陰山田理事官今夕バリトスヘ歸ル

大使信報第九号

十三

大使信報第九号

公書畧之

畧日記

明治五年壬申八月朔日陰午後パークスアレキ
升ントル之誘引ニテ當官内省ヨリノ招キヲ
以テボクキンハム宮一覽トシテ五使書記官
相越ス尤謁見ノ節可相越書記官ノ之陪スヘ

大使信報第九号

十三

シトノコトナリ宮中女皇ノ粧室卧房等ハ入
ルヲ許サス曰ク女皇在時取テラセシマ、ナ
レハ外人ノ見ルコトヲ許サスト宮殿ノ巍哉
壯麗モトヨリイフヲ不待シカレトモ此ヲパ
リリスノ故チイレリ「官ニ比スレハ一頭地
ヲ讓ヲサルヲ得ストハ導者ノ既ニ自カライ
ヘリ

同二日晴午後議院及議院中ニ在ル法局等一覽
パークスアレキサントル導之書記理事官陪

之此日午前佛推公使來見

同三日晴瑞西總領事其領事ト共ニ來見ス

同四日晴女皇謁見ノ儀ニ付本國外務執政ハノ

書東福地源一郎持参ス第廿三号御國信到來

午後アリンスアルベルトロトニ在ル博覽會

一覽パークスアレキサントル導之會長夕一

人マジョルドウイントン使節ヲ迎へ案内ニ選

吏他ノ見物人ヲ制シ我使節ト混行セシメス

接待甚厚ニ所見奇技機巧一々枚舉ニイトマ

アラス達ニカピタンフランクリンノ寡婦ヲ
 訪ヒソノ園會ノ招キニ應スフランクリンハ
 北極磁標ノ所在ヲ探ントシテ未檢ノ地ニ赴
 キ終ニ所向ヲ知ラストイヒ有名ノ航海者
 ニシテ寡婦ニ財ヲ費シテ其蹤跡ヲ訪求ニ再
 ヒ船ヲ發シテ終ニ其遺物ヲ氷雪中ニ得タリ
 即其遺物ヲ房中ニ羅列シ又訪求センカ為ニ
 彼地ニ赴キシ人物ヲ繪セリ其篤志知ルヘシ
 遺物ハ時辰儀ノ空匣小刀鉛筆等ナリ此寡婦

又カツテ我國ニ来リシヨシニテ一室皆我國
 ノ器具ヲ装シ茶ヲ供スルモ亦我國風ヲ習ヒ
 我茶什ヲ用ヒ糖酪ヲ加ヘス一好事人ト見ユ
 同五日晴ウインドソルケストル一覽其結構壯
 偉園囿ノ設ナドイカニモ人目ヲ娛シムルハ
 筆スルニ暇アラスパークスアレキヤンドル
 導之書記數人陪之此日白義公使其書記ヲシ
 テ来ラシム曰ク本公使以病蘭墩ニアラス訪
 問ヲ欠クヲ致ス仍テ已ラシテ公使ノ名刺ヲ

通之其意ヲ致サシムト

同六日陰無事

同七日陰雨午後晴チユククアガノールヨリ來書アリ先ニ訪問ニアツカリシヲ謝ス

同八日晴午前九字アレキサンドルアストン誘引ニテ五使書記共出館武庫ウールチ一覽ニ赴ク

途中ウエストミンストル搗畔ニテパークズニ會シ同所ヨリ小火艇ニ乗シテテム河ヲ下リウールウイチニ至ル蓋本府ヲ距ルコト東八里

ニアリ衆上陸ノ際武庫造丸局長迎接シ門ニ入ル門内魯西亞及支那ニテ分取セシ大砲等ヲ列置ス魯砲ハ砲口糜爛多ク敵丸ヲ受ケタルヲ見ル支那砲ハ然ラス皆新ニ型ヲ發スルモノ、如シ以テ其國人ノ戦ニ勇ムト否トヲトスルニ足ルベシ夫ヨリセ子ラルウード長庫同道造丸局ニ至ル番機瀧力ヲ用ユルハ勿論ナレドモ其機ノ大馬力二百五十ヲ用ユルニ至ル一日所造出砲丸最大ナルモノ三百斤ニ

大侵信

シテ三十五噸ヲ造出スヘシトイフ其盛大推
シテ知ルヘシ其他造輪造桶樂局製砲製車諸
局ヲ歴覽ス皆其造作ノイソカハシキ殆ト人
ヲシテ敵四境ニアルモノ、如ク疑ハシム一
使節其規模ノ大制置ノ盛ナルヲ獎賛セシニ
ウード答ヘテ曰ク畢竟皆人血ヲ流サシムカ
為ノミ是豈文明國ノ宜クアルヘキモノナラ
ンヤ我最是ヲ愧スト乃チウードノ食堂ニ午
餐ノ享ニ就ク砲兵樂ヲ戶外ニ奏ス待遇甚懇

攀ナリ此武庫中役夫ハ千人トイフ薄暮歸館
同九日陰午後王廐一覽アレキサンドル誘之書
記理事官陪之タマヨールノ招キヲ以テメシ
シヨシハウスニテ晩食ノ享アリ五使ノ外四
書記陪之其接客ノ体大ニ古風ヲ存シ食了喫
茶ノ時ニ至リ大盃ニ酒ヲ盛リテ客主相對シ
是ヲ廻喫シ又壽詞ヲ述ルノ間女樂工ヲシテ
風琴ヲ彈セシムル杯頗ル風俗ノ異ルヲ見ル
同十日快晴此口ヘーコンヒル峰火ニ於テ操兵

大侵信

五

アルヲ以テバ、ク、ス、ア、レ、キ、サ、ン、ド、ル、ノ、誘、ニ
 應、シ、朝、六、字、半、出、館、大、副、使、伊藤氏、不、伴、藤氏、數、書、記、一、同
 ワ、一、ト、ル、ロ、瀛、站、ヨ、リ、衆、車、九、字、半、ク、レ、ト、レ、
 站、ニ、達、ス、二、騎、兵、豫、メ、我、曹、ノ、來、ル、ヲ、待、チ、オ、レ、
 リ、乃、チ、馬、車、ニ、先、導、ス、此、地、蘭、嶼、ヲ、距、ル、殆、ト、ハ、
 十、里、英里、然、レ、共、操、兵、ヲ、見、シ、カ、為、來、ル、所、ノ、士、女、
 雜、沓、操、場、近、傍、ノ、小、岡、皆、充、滿、セ、リ、地、平、坦、ニ、
 テ、岡、陵、起、伏、ス、最、操、場、ニ、適、宜、ア、リ、我、曹、ハ、別、ニ、
 一、區、ノ、地、ヲ、畫、シ、其、内、ニ、テ、見、物、セ、シ、メ、此、國、

華、族、内、眷、杯、ノ、ミ、其、内、ニ、容、ル、ヲ、許、ス、処、ナ、リ、其、
 地、ノ、傍、ニ、旗、杆、ヲ、立、大、旆、ヲ、掲、ク、正、午、祝、砲、廿、一、
 响、ヲ、轟、ス、兵、隊、進、行、ヲ、ハ、シ、ム、此、ヨ、リ、先、太、子、ウ、
 ル、ス、公、一、小、隊、騎、ヲ、率、ヒ、本、日、ノ、元、帥、テ、ク、オ、
 フ、カ、ム、ブ、リ、テ、及、各、部、將、并、ニ、各、國、ヨ、リ、
 來、リ、見、ル、所、ノ、武、職、ノ、者、ト、皆、馬、ヲ、大、旆、ノ、下、ニ、
 立、兵、皆、列、ヲ、整、ヘ、テ、其、前、ヲ、過、ク、步、騎、砲、ヲ、并、セ、
 テ、凡、三、万、五、千、其、整、肅、イ、フ、ヲ、不、待、最、後、ソ、ノ、騎、
 兵、一、萬、ヲ、二、カ、シ、テ、戰、列、ヲ、ナ、サ、シ、メ、九、ノ、一、里、

ヲ距ルノ地ヨリシテ疾馳蹂陣ノ勢ヲナス太
 子諸將見物ノ前數十步地ニ至リ一號令ノ下
 一頓ニ蹄ヲトメ少参差ナシ最壯觀タリ觀
 了リ来路ニ從ヒ歸館先是此地ニ數日ノ演兵
 アリ兵隊ヲ二分シ彼我ヲ令テ相戦ハシメ戰
 略ニ熟セル將校其整列ノ遲速布陣占地ノ要
 否放砲縱騎ノ機ニ應スルヤ否ヲ見テ双方ノ
 勝敗ヲ判ス或ハ勝テ凱ヲ奏スルアリ或ハ坐
 之テ囚虜トナルアリ此演兵數周ニ及ヒ所費

金額五十萬ニ越エ十本日本日ハ其双部ヲ并セ
 テ整列行進セシモノナリトイフ此日第十三
 號公信ヲ發ス

同十一日晴是班牙公使来見使節来國ノ期ヲ問
 フ夕メルセルホウル晩食ノ招アリ五使ノ外
 書記陪之是當府ノ舊商會ナルヨシ

同十二日陰

同十三日陰無事

同十四日陰外務執政グラシウニヨリ女皇謁見

大使信報

ノ綴ニ付申入ニ書柬ノ報来ル

大使信報第十号

公書略之

略日記

明治五年壬申八月十五日晴午後アレキサン
川案内ニテ府中小童學校一覽アリ在校ノ童
子現ニ百五十餘名アリトイウ当國學校監督
ラーリ氏ヨリ書柬ヲ添自著ノ書数部ヲ呈

大使信報第十号

ス

同十六日陰午後アレキサンドル案内ニテロ
トシタウル^古城并驛遞寮傳信局一覽アリ大副
使以外小松燾盛杉浦弘蔵久米邦武陪之^ハ
クスハ事アルヲ以テ途中ニテ待受同道セリ
此古城ハ舊史中ニモ其名著シク古昔囚獄ノ
跡ナト巖然猶存スソノイニシヘヲ追憶スベ
シ宮園テームス河ノ源ニ沿テ緑樹葱然所謂
長馳道ナルモノアリ此古宮結構ノ壯麗等ハ

衆人ノ知ル所ナレバコ、ニ縷記セズ

同十七日晴第二十四号公信到着午後三字ヨリ
水精宮游覽アレキサンドルパークス、アスト
ン、誘之杉浦弘蔵久米邦武陪之同所ニテ晚餐
アリ夜ニ入煙火技ヲ一覽帰館殆ント十字ニ
至ル此所ハ先年博覽會ノ舊趾ニシテ今猶奇
禽異獸海魚等ノ見セ物アリ歌吹ノ場舞踏ノ
堂奇技淫巧ノ賣物ソナワラザル處ナシ皆以
テ入ノ月目ヲ樂シメ入ノ智識ヲ博ムルニ足

大使信朝第十

レリ

同十八日陰午後一字ヨリ五使節パークス、居宅ニ尋訪アリ同所ニテ午飯ノ供アリ夫ヨリ同人案内ニテ当國宮内卿某ノ村莊ニ至茶菓ノ設アリ陪者杉浦弘蔵

同十九日陰無事

同二十日無事

同二十一日晴大久保山口兩副使造幣寮一覽アリ

同二十二日微雨午前木戸副使中學校及刑法局一覽アリ午後大久保伊藤兩副使大蔵省一覽吉田大蔵少輔亦陪ス書記数名陪之第十五号公信ヲ羨ス第廿五号外務省ヨリノ公信到着同二十三日朗晴本府司法省ヨリ木戸副使招待アリ以病辞之

同二十四日陰此夕当府市尹ヨリ晚餐ノ宴有五使外塩田福地何林陪之

同二十五日雨木戸大久保伊藤三副使ブリッセミ

チエラ一覽書記數名陪之

同二十六日曉雨午晴無事

同二十七日晴午後四字使節一同蘇格蘭巡歴ト

シテ炭程アレキサンドルパークス、アストン

案内タリ書記隨者何礼之林董杉浦弘藏以外

久米邦武等ナリ大鳥圭介モ願ヲ以テ隨從ス

但山口副使ハ微恙アルヲ以テ明日炭程ノ積

書記田邊太一安藤太郎苗役ノ命ヲ奉シ塩田

三郎福地源一郎小松燾盛皆養病ノ故ヲ以テ

不從

第五号拾遺

三月廿四日ヨリ廿九日迄別ニ記スルニ足ル事

ナシ

四月朔日晴午後正院及外務省へ公信第六号ヲ

炭ス新紙器炎熱計温器八十六度ニ昇ル

同三日晴熱甚シ夕第六字大副使以下書記二人
及森辨務使國務卿非西氏ノ招ニ應シテ其家
ニ饗セラレ

同四日晴午後第一字ニウヨーク府私築女學校
ノ生徒六十有余人來リテ使節ニ謁ラ乞フ生
徒ハ齡十六歳ヨリ其尤モ長ナルハ三十許ニ
至ルアリ此校ニ於テ毎歳夏日休業ノ間教頭
所養ノ生徒ヲ率ヒテ諸府城ヲ巡行シ深窓ノ
少女ヲシテ各地ノ風俗形勢ヲ知ラシメ兼テ

旅行ノ辛苦ヲ嘗メシハルト云フ然レモ聯邦
中部ノミニシテ渡洋ノ長程ハナサ、ル由ナ
リ生徒中間日佛等ノ外語ヲ善ク解スル者ア
リ須臾ニシテ散ス

同八日晴吉田清成犬島圭介ウイリヤムス由良
本多及留學生徒数輩サンフランシスコヨリ
入府シ來リテ使節ヲ見ル

同十一日晴府中優妓ケイトナル者使節ヲ新劇
場ニ招待セリ

同十七日晴此日当府ノ市兵整列アルヲ以テ午
 後一字半大副使以下招ニ應シテ調兵場ヨロ
 シビヤアルモリ―グラウシドニ抵ル市兵歩七
 百騎二百砲三座装服ハ各種ニシテ其制一ナ
 ラス運動一時間ニシテ畢リ騎歩砲ノ三兵次
 ヲ以テ行進使節ノ前ヲ過キリテ出場大統領
 自殿ニ赴ク時ニ總督齡九五十有余金装肅々
 肥馬ニ跨リ衆ニ先チ来ルヲ見ル其ノ近クニ
 及シテ初メテ我軍平生所知ノ裁縫舗ノ主人

タル事ヲ認メ衆相視テ愕然彼常ニ兵事ヲ説
 カズ又武風ヲ帯ビス純乎多ル一小市人タル
 ニ俄ニワシントン府市軍三兵ノ總帥タル事
 我輩ニ在ツテ一奇事ト謂ツベシ此翁ヲ一之
 ト名ク南北戦争ノ際在軍屢功アリ就中密
 河ノ夜撃ニ偉勲ヲ奏シ感状數通ヲ得戦歎ニ
 ナ後我兵ヲ解キ市人ニ出シ裁縫師ヲ以テ業
 トナス然レモ一旦事アレバ常ニ市兵ノ總督
 ニ任セラルト云帰途ワシントンクラツブト

大倭信報第十

六

名クル會游場ニ憇フ此ノ屋ノ築造壯大ナラ
スト雖尺極メテ清潔樓ニ層各層ニ小房若干
アリテ轉九角恭奏樂踊舞讀書飲食ノ用ニ供
ス市人會社ヲ結ビ之ヲ築キテ閑暇ノ日相集
ツテ此ノ處ニ縱游スル乃自己ノ家屋ニ齊シ
キ者ナリ第四半歸館ス

同十八日晴夜兩副使木公招ニ應シテ劇場ニ抵
ル

同廿日晴無記事

同廿二日晴午後四半ヨリ大副使以下招ニ應
シテゼ子ラル、マヨル氏トブリツクハウスト
名クル一幽地ニ游フ此地ハ府ヲ去ル六里許
北東ニアリテ地勢高隆ワシントシ府ヲ一望
ノ中ニ占ム其他四面ノ遠山遠逸往年南兵都
ニ迫ルノ區地歷々指メ可シ府知事クツク氏
同行我輩ノ為ニ地経ヲ説ク詳ナリ八字半歸
館

同廿四日陰此日往年南北ノ乱ニ戰死セル者ノ

祭魂日タルヲ以テ大副使以下モ招ニ應シテ
此ニ會ス祭場ハ府ノ東南ニ里許ニアリテア
ルリシトシトシト府トボト
マツク河ヲ隔テ斜メニ相對ス乃チ此卒埋葬
ノ墓五十一字過キ衆祭場ノ壇ニ登リ諸省ノ
長官數輩祭文ノ演舌アリ譯員バインクス氏ノ
演文中ニ我國性歳ノ變ヲ引キテ辨論セルア
リ譯文コレ大統領モ亦之ニ會ス祭儀ニ字間
ニシテ畢ル驟雨急ニ來ル第四字頃帰館

廿五日ヨリ二十八日ニ至ル迄記載スベキ事
ナシ

大使信報第十一号

大使信報第十一号

略日記

英蘇巡歴ノ記

明治五年壬申八月廿七日晴天夕ニ霧ヲ起シ雷
 雨ノ頃刻ニテ霽ル英政府ノ案内ニテ大副使
 四名書記官何林杉浦ノ三名及ヒ理事官吉田
 清成田中光顯凡九人パークスアレキサンド
 ル及ヒアストシノ接伴ニテ別段ノ車ニ乗シ

大使信報第十一号

九便備報第十一

倫敦ノユーストン^{ユーストン}汽車驛ヲ發シリバプール
ニ赴ク距離二百一マイル四字ニ發シ十字ニ
達ス

同廿八日陰雲濛々トシテ小雨ス十二字半ヨリ
馬車ニ駕シ府廳^{多ハル}ニ往キスピー^{スピー}チヲ取代シ商
社會^{シヤク}會議^{フク}所ニ至リ帰テ旅館前ニテ消防調練ヲ
觀ル夕七字ヨリ府廳ニ赴キ享宴アリ會食百
六十人樂ヲ奏シ歌ヲ諷シスピーチアリ十二
字ニ徹ス當府ハ米洲往來ノ要港ニテ人口五

十万三千ノ都會ナリ今夜山口副使久米邦武
來着ス

同廿九日陰リ十一字ヨリ駕シ船^{ボツク}廠ニ至ル當船
廠ハ港口六マイルニ連リ世界無雙ノ稱アリ
先ツ水門開闔ノ仕掛ヲ觀テ夫ヨリ穀倉ニ入
ル米利堅ノ麥蜀黍ヲ散粒ニテ六十七室ノ廣
キニ蓄フ運搬ノ器械ニ奇巧多シ夫ヨリ修船
槽ヲ觀テ砲臺ニ至ル戊卒禮式ヲナス次テ荷
揚辭舎ヲ見回リ米洲往來ノ郵船ニ上ル船中

大東洋報第十一

ニテ午食ヲ享ス夫ヨリ車ヲ返シ煤炭積卸シ
 ノ仕掛ヲミテ烟草倉ニ至ル亦廣場數十室ノ
 廣ニ桶ヲ以テ捆束シ蓄フ多クハ米洲ノ産ナ
 リ日本ノ葉モ亦輸入スルモアリト交易ノ微
 ナルヲ徴トスルニ足ル船廠ヲ出テ帰路ニ水
 夫宿屋ニ立寄り六字ニ帰館ス此時ニハ五字
 二十分日没シ六字ニ昏ス夜芝居ニ招カル
 同三十日晴天ニテ過雨フル十字半ヨリ駕シテ
 博物觀ヲ歴觀シ浮波戸ヨリ河蒸氣船ニ上リ

ミールシー河口ヲ下リ港口ノ形勝ヲミル右
 岸ノ砲臺昨日歴見ヨリ砲十七發ヲ祝シ船ヲ
 返シ河南ノ船廠ニ上陸ス此ハ造船槽ニテ現
 ニ郵船ニ隻ヲ打立タリ是ハ當港ニ新ニ社ヲ
 結シ歴瀾洋太平洋ニ浮ヘ米國ノ郵船ヨリ一
 倍ノ速力ニテ上海ヨリ當港へ三十日許リニ
 テ着セシムル企テナリ来年ノ五六月ニ成就
 スベシ又一槽ニハ大鉄船ヲ横截シ新ニ二丈
 餘ヲ補ヘルヲミル其他船材ヲ制スル大制鉄

大鉄船製鉄所
 大鉄船製鉄所
 大鉄船製鉄所

器械ノ運轉數箇ヲミテ馬車ニ駕シ諸船槽ヲ
巡リ又ニ郵船ニ上リ其内ニテ午食ヲ享ス夫
曰リ河蒸氣船ニ返リ船學校四隻ヲ見四ハ一
隻良家ノ子弟ヲ入レ操舟術ヲ教ユ一隻ハ
水夫ノ子及ヒ孤兒ニ水夫ノ業ヲ教ユ其二ハ
生育ノ悪キ兒童ヲ父兄ヨリ頼ミ此ニ入レテ
水夫トナシ其變性ヲ庶幾スル設ナリ上岸ノ
後ニ郵船新會社ニ立寄リ六字ニ帰ル八字ヨ
リ商社ヨリノ招宴アリ會食ノモノ百餘名其

儀ハ例ノ如シ宴了リ馬芝居ニ招カル婦人ノ
カ技アリ

九月一日濕雨濛々タリ十字五十分ニ旅館前ノ
セントキョーチノ講堂ニテ大樂器ヲ調スル
二曲ヲ聞キ十一字五十分ノ汽車ニテ發ス府
ヲ出ルコト天モ亦霽ル南走スル三十マイル
許ニテクルーウニ着シ制鉄場ヲ回覽ス此場
ハ英國ニ一千五百マイルノ鉄道ヲ有シ此地
ニ製造場五六區ヲ建テ鉄軌鉄板汽罐汽車及

鋤銅ノ器械ヲ共セ製ス人ヲ用フル五十毎
 年ニ價七百二十万磅ノ軌及ヒ車ヲ造リ出ス
 現ニ冶成セル汽車殆ト一百アリ捧鉄ヲ積ム
 薪ニ齊ク煤炭ヲ堆シテ丘ヲ成セリ會社ノ議
 堂ニテ晝食ヲ享シ晚ニ汽車ニ上リ四字五十
 分ニリバプール^ニ帰ル夜當地ノ官員商豪ヲ招
 饗ス

同二日終日雨フリテ休マヌ朝九字半ノ汽車ニ
 テリバプールヲ發ス吉田清成ハ從ハス途中
 ニセントヘーレン^ノ板玻璃製造場ニ至ル此
 ハ專ラ板玻璃ノミヲ製ス傍事ニ鑑モ製ス皆
 上品ナリ人ヲ用フルキ六百人一周日ニ煤炭
 ヲ燒ク一千三百噸ニシテ六万方尺ノ玻璃ヲ
 製シ出ス當村ノホテルニ於テ社中ヨリ晝食
 リ享ス是ヨリ車ニ上リ東走シ五字ニモンチユ
 ストルニ着ス今日走ル所ノ鉄道ハステフエン
 クンガ開キシ處ニテ鉄道ノ鼻祖ニカ、ル知
 事驛ニ出迎フメンチエストルハ人口五十万四

千英倫ニテ第二ノ都會ニシテ布帛ノ名所ナ
ノリ夜芝居ニ招カレ

同三日濕雲黯々トシテ終日雨フランドスルカ
如シ十字ヨリ知事業内シテ紡棉場ニ至ル仕

掛波士敦ニ同シ夫ヨリフィットウオルフノ鑄物場

ニ至ル此場ハ鋼砲ヲ鑄シ砲彈ヲ製シ鉄輪鉄

床等ノスヘテ鍛ヒ要セサル器械ヲ鑄成ス人

ヲ用フル九百人三十五六年前ヨリ始テ之ヲ

起セリト晝後ヨリフシチコーレト云出張裁判所

ニ至ル室々ヲ見回リ夫ヨリ牢獄ニ至ル其結

構ヒラドルヒヤニ同シクシテ更ニ備ハレリ

男女ノ牢共ニ一千室ツ、此裁判所及ヒ牢ミ

ナ一千八百五十九年ニ造營ス其費三百三十

五万ポントヲ糜セリ英國中ニ尤モ完備ノモ

ノナリトス七字半ヨリ知事ノ宅ヘ招カレ立

食立談ス

同四日晴天ニテ風寒シ禮拜日ニテ只近郊ニ車

遊ス

大英信報第十一

五

同五日陰雨日ヲ竟フ十字ニ知事案内ニテ花布ヲ
 印スル場ニ至ル銅筒ニ花紋ヲ彫シローロ仕
 掛ニテ印ス波士敦ニテ見シト大同小異ナリ
 銅筒一箇ニテ上雕ハ價六十ポント花布ハ二
 十六ヤールトニテ價十二シルリクヲ上ト
 ス夫ヨリ紡棉場ヲ回ル入ヲ用フル九百人婦
 人大半ニオル次ニ織棉場ニ至ル絲ヲ染メ之
 ヲ繰リ之ヲ整理シ之ヲ卷キ機ニ上セテ布ト
 ナス皆仕掛アリ只繰ヲトル一全ク人工ニ付

ス織機六百箇ヲ両室ニテ織ル疾風ノ響武室
 ニ滿ツヲ聞ク一機ノ力日ニ三十七ヤール
 ヲ織ル晝後ニゴハ製場ニ至ル中亞米利加ノ
 11/2 ガヤンラバトテ木液ノ凝結シ木耳ノ様
 ナルヲ輸シ来リローロ仕掛ニテ之ヲ輾シ塗
 炭硫磺ヲ掺シ之ヲ練軋スル數回ノ後ニ展ヘ
 テ布トナシ卷テ管トナシ鈍シテ薄片トナス
 其用甚廣シ四字ヨリ府廳ニテ享遊ヲ開カ會
 食百二三十人式タル例ノ如シ了リテ芝居ニ

誘引ス使節ノ為ノニ別筵ノ演戲ナリ

同六日薄陰時アリテ日輝ヲ洩ス十字半ヨリ知
事案内ニテ布帛其外仕入ノ店ニ至ル全室六
階アリ中ニ原價二十五万緡以上ノ品物ヲ蓄
フ羅綾絨呢ヨリ頭帽手袋細ハ彩花ノ類マテ
皆備ハル次ニ市中取締所ニ至リ盜賊ノ下究
メ西次ヲキ、オウ^ル學校ヲ回見シ^ル兩替會所
ニ至ル滿堂ニ商民群集シテ之ヲ觀ル寸際、
地ヲ留ス甚混雜ナリ夫ヨリ東洋輸出會社ニ

至ル屋宇新造ニテ甚廣シ中ニ六十馬力ノ汽
器ヲ仕掛ケ以テ水ヲ引上ケ其力ヲ以テ器械
ヲ押テ荷ヲ細束ス布帛ヲ積テ處々ニ丘ヲ大
セリ三字ヨリ府廳ニテスピ^リチヲ取代シ夜
商社ヨリ饗宴ヲ開ク

同七日朝雨フル十字半ヨリメ^ンチェスト^ルヲ發
ス知事驛所マテ送ル缺道ニ爆丸ヲ設ケテ祝
ス夫ヨリ北走スル一字間ニテ天快晴シ初テ
一碧ノ青天ヲミル晝二字ニ海灣ヲ走ル是ヨ

大英信報第十一

八

リ崇山重嶺アリ清流潺湲トシテ縈紆シ蘇格
 蘭ノ境ニ連ル略本邦ノ氣象アリ夜九字半ニ
 グラスゴーノ東鄙ナルビショップトン驛ニ達
 ス勞徳^{ワルト}プランタイル氏馬車ニテ迎ヘテ其宅
 ニ延キ親ラ一行ニ部屋ヲ與ヘ一家ト會食セ
 シム此日北走スル四百マイル
 同八日陰リ十字半ヨリ汽車ニテグラスゴーニ
 赴ク知事及ヒ商社長等驛ニ迎ヘ市民群集シ
 之ヲ觀ル當府ハ英海西灣ノ上流ニ控ヘ蘇格

倫第一ノ大都會ニテ全英地ニテ第二ノ繁昌
 ノ地ナリ人口五十万六千五百五十人山ニ據リ
 河ヲ擁シ屋麓山ニ連リ街路粗高低アリ皆車
 ヲ輾ルニ支ラス知事ノ案内ニテヒッケンボー
 ガン社ノ紡織機械製造場ニ至リ夫ヨリトッパ
 ス社ノ汽車製造場ニ至ル此場ハ人ヲ用ヒル
 一十五百人夫ヨリ棒鉄ノ製造場ニ至ルミナ
 當府ノ大製作場ナリ夫ヨリ兩替會所^{両替會所}ニ入ル
 商民堂内ニ群集セルトハエントルニ同

シ次テ商社出會所ニ至ル商豪百餘人着席シ
スピーチアリ夫ヨリ町役所ニ至ル午餐ノ享
アリ畢テウエストエント花ニ至リ車ヲ留ム此
場ハ山ヲ負ヒ河ニ臨ク虹橋兩條ヲ隔テ遙ニ
大野ヲ望ク其眺ノ頗快ナレ英ノ都府ハ霧
多ク且製造場ノ黒煙ニテ常ニ眺望ヲ妨ク恨
ムヘキ耳先前ニ大巖宮ゴウシキアリ生徒一千三百人
ライレ教ユルト云夫ヨリ市中ヲ回リテ五字
ヨリ汽車ニ上リ六字ニグラシタイ山氏ニ帰

リ一家ト會食ス
同九日晴天十字半ヨリ汽車ニテグリノツクニ赴
ク此地ハ人口四万二千格拉斯ゴーヨリ二十
マイルノ下流ニアリ造船ニ高名ナル地ナリ
郡令評議官等驛ニ迎ヘケヤ社ノ造船場ヲ
回ル數區ノ製造場アリ首ニ造船ヲミル人ヲ
用フル三千五百人現ニ十二ノ鉄船ヲ打立タ
リ其價十萬ヨリ十二萬ポント次ニ真鍮製作
場ニ至リ次ニ塗物場ニ至ル此ハ多ク婦人ヲ

大正十一年

十月

用フ皆船ニ用フル金物塗板ヲ造ル所ナリ次
ニ新造ノ大郵船ニ上ル長サ四百八十フィート
此船成レハ郵船中ニ第一ノ大船ナリト堅瀾
洋ニ用フルノ目的ニシテ即リバパールノ郵
船新會社ノ一幫ニカ、ル是ヨリ「ウキーカ」社
ノ白糖精製場ニ至ル屋造尤モ高シ凡ハ階
ノ屋根ニ水ヲ蓄メ池ノ如シ最上階ヨリ糖汁
ヲ流シ毎階ニテ濾ニ淋リ濾ニ煉リ第二階ニ
至テ粹白ノ糖トナル一周日ニ製シ出ス白糖

一千噸ニテ每噸ノ價四十磅入ヲ用フル四百
五十人ナリ前後ノ製造場中ニ此屋造ヨリ高
キモノナシ夫ヨリ「ケヤ」ノ私宅ニ延キ午餐
ヲ享シ六字ニ「ブランタイ」氏ニ帰リ一家ト
會食ス

同十日晴天主人「ブランタイ」氏親シ案内シ其
家車ニ駕シテ所有ノ田地ヲ回リ代作ノ農家
ニ至ル是ハ二百「エーカー」ノ田地ヲ借受ケテ
耕作スル家ナリ此家ヨリ年ニ地代四百「ポンド」

大英信長年十一

トヲ出ス全所有地ノ收ムル高ハ二万ポント
ナリト夫ヨリ馬既ヲ回リ次ニ牛園ヨリ獸園
花園ヲミテ瓦斯室ニ至リ帰テ其邸宅ノ室々
ヲ見回リ臺所物置マテ残ラス親ヲ導キ示シ
晝食ノ後ハ近在私有ノ田地ヲ乘回リ四字ニ
暇ヲ告ケ汽車ニ上リ西ニ走ル五十餘マイル
六字半ニエゲンボークニ着ス

同十一日亦晴天此日ハ禮拜日ニテ休シ近郊ヲ
散遊スエゲンボークハ元蘇格蘭ノ都ニテ今

ハ以テ別官トス其地山谷一擡リ崇山峻嶺前
後ニ突起シ市塵ハ其谷ヲ填ム堂尖參差トシ
テ山頂ニ聳ヘ石屋傾仄シテ崖谷ニ靠リ殊ニ
奇狀アリ街路ノ高低一ナラサレモ之ヲ開ク
閭帳ニテ屋造モ亦幾ナリ英人之ヲ愛シテ世
界ハ勝境ト云ト人口ハ十六万八千アリ文學
殊ニ盛ナリ東久世通禧等英蘇ヲ回リ此ニ遊
遊ス

同十二日薄陰時々日ヲミル英地殊冬ノ際ハ雨

フラサレハ陰ル日光ヲミルヲ異トス近頃連
 日ノ晴珠ニ異候ナリト云十字ヨリ歩テ「パー
 レメントコート」ニ至ル此ハ裁判所ニ書庫ヲ
 兼テ書ヲ蓄フ十二万冊ノ多キアリ前ニ寺ア
 リ學校アリ此ニ入り引電器ヲ運シテ示ス夫
 ヨリ車ニ駕シ博物觀ニ至ル此觀ハ物ヲ聚メ
 ル甚多シトセス然レ物ノ成立セル始末ヲ次
 叙シテ示ス殊ニ學知ニ益アリ從來見レ所ノ
 諸觀中ニ第一ト云ヘシ觀ヨリ廊ヲ架シユニ

ワルシチーニ接連ス此巖ニ入り試業ノ堂ヲ
 ミテ出テ市外ナル山麓ヲ回ル山ハ石ヲ負テ
 立ツ全面ニ軟艸芊々トシテ甚清潔ナリ其最
 高ノ山頂ニ上リテ眺望ス英地例ノ深霧ニテ
 風景ヲ妨ク山ヲ下リ蘇格蘭ノ王宮ニ入ル蘇
 王代々ノ繪像アリ故王ノ寢床アリ女王クイーン馬利マリ
 ノ寢床針箱アリ遙私ノ間道アリ奸夫ヲ刺シ
 屍ヲ弃ス處アリ血痕模糊トシテ猶存ス夫ヨ
 リ宮内ノ古寺ヲ觀テ車ヲ返シ晝後ヨリ「ラク

リヨシエンチン製造場ニ至ル是ハ通常ノ平路
ヲ輾ル汽車ニテ三年前ヨリ始テ製シ印度
オスタラリヤ等ノ缺道ナキ地ニ用フ一車ノ
價一十六百磅二十噸ノ荷車ヲヒクニ足ル高
キハ五ニ一ノ勾倍ヲ上ルト云

同十三日薄陰日ヲ盡シ夜ニ入テ雨フル十字
駕レ「バーテレット」社中ノ「ゴム」製場ニ至ル此
社ハ十六年前ヨリ初起シ雨衣及ヒ履ヲ作ル
一殊ニ多シ去年ノ製出セル履百二十五方ナ

リト人ヲ用フル男女一千四百人米人バーテ
レット之カ長トナル是ヨリ其向ヒノ全製造場
ニ至ル是ハ拂ト鈕釦トヲ専ラニ作ル故ニ其
場モ較ヤ小ナリ夫ヨリ十「マイル」ヲ走リワリ
「フーールド」村ノエユー「ワン」ノ宅ニ入ル晝食ヲ
享シ其兄弟導キテ其私社ノ濃紙場ニ至ル此
家已ニ三世紙ヲ製スト紙ヲ濃クニハ精巧ノ
火器概少シ其料ハ木棉麻糸ノ布ノ破片断屑
ヲ資トシ其内ヨリ水ニ流レザル漆料ヲ加ヘ

シモノヲ擇ミ去テ苛勢曹達ニテ煮爛シ之ヲ
 水ニ洒シ且ロルニテ碎キ數回ノ後ニ水ニ
 之ヲ漉キ車輪ニ卷ク幅五尺餘其長サハ數
 十里ニテ盡キス之ヲ膠水ノ底ニクグラセテ
 六十六輪ヲ傳ヘテ羽車ニテ乾カス而後ニ之
 ヲ切り之ヲ展ヘ澤ヲ生セシメテ包ミ出ス我
 漢紙ト大ニ異ナリ夫ヨリ車ヲ返シロストン
 氏ノ古寺ヲ訪ヒ溪山秋林ノ勝ヲ覽シ歸ル
 六字ナリ

同十四日朝ナホ雨フル八字半ヨリ汽車ニテ東
 方グレントン港ニ至ルイセヨシライトヨムシヨナ此地燈臺官ヨリ河蒸
 氣松ヲ織シテ待ツ之ニ上リ九字十分ニ出船
 シ四十「マイル」ヲ走テ「ベルロック」ノ燈臺ニ至ル
 是ハ一千八百十一年ニスチーガントノ建夕
 ル高名ノ建築ナリ此時雨晴タレ辰潮候アシ
 シ之ニ上ルヲ得ス松ヲ回シテメイル島ノ燈
 臺ニ至リ之ニ上リ夫ヨリ帰路ニ船中ニテ饗
 宴ヲ開キ「スピーチ」アリ夜九字ニ帰館ス

大使信報第十一

十四

北伐傳報第十一

十月

同十五日義晴八字半ヨリ蘇ノハイランド湖山ノ勝ヲ觀ルカ為メニ汽車ニテ北茨ス副使ニナ事故アリテ大使及ヒ杉浦久米福井ノ三名從フノミ十二字半ニ左ルチ驛ヲ出テ初テ山水ノ奇狀アリ一字半ニアツソル驛ニ屆キ車ヲ奔テ歩テアツソル去^ク英^ク第一ノ莊園ニ入ル園内ハ平衍ノ草原ニテ門ヨリ直道八町許ヲ開ク殊樹路ヲ擁シ落葉地ニ滿チ履ニ聲アリ道窮テ去^ク居アリ小山ヲ負テ起ス前ハ奇峯

溪水ヲ帶テ重疊シ其趣甚佳ナリ守園ノ老叟導キテ園内ノ瀑ヲ觀セシム此處老樹森蔚トシテ水聲ヲ蔭ス溪ニ浴テ歩シ園ヲ出テ車ヲ就^ヒキ^ユリカンキ^ノ溪ニ至リ車ヨリ下ル此處ハ峻嶺前ニ聳ヘ溪水底ニ流レ兩崖ニナ秋樹中ニ松樹洛陽松ヲ錯ユ丹青ヲ以テ米點ノ山ヲ画クカ如シ^凡蘇^境ノ山々夕日也隱^レ殘霧尚紫ナリ蒼然タル暮色ノ底ニ溪聲ノ咽

大東傳報第十一

十月

大正十一年

立テ山ノ勝境ヲ品シ終ニ車ニ上リ秋葉ノ蕪
路ヲ走り暝ニヒトロツクノ驛ニ至リ汽車ニ上
リドンケル驛ニ達シバーナム村ニ宿ス

同十六日曉晴始テ霜ヲミル朝暎朗ラカニ上ル
久クシテ又陰ル八字半ニバーナム村ノ近方
リ四リアツソル「去克」ノ別墅ニ至ル此邊ハ平原
ニテ岑巒環拱シテ清川縈回シ別墅ハ其一區
ヲ占メ州原ノ内ニ岡陵アリ其一ハ圓基ニシ
テ方丘上ニ小砲ヲ環備ス此邊モト古戰場ニ

テ自ラ悲惨ノ慨アリ奥ニ一字ノ古寺アリ七
百年前ノ初建ニテ半廢シ半完シ「セバステ」ボ
「ル」戦状ノ石彫アリ此ヲ出テロンブリンノ
瀑ニ赴ク途上ノ山勢ミナ奇ナリ時ニ遠山ノ
雪ヲ戴クヲミルロンブリンノ瀑ハ水勢甚大
ナラサレモ石ノ怪險ナル間ヲ咽ヒ流レテ其
虧缺ヨリニ丈餘ノ底ニ落テ深潭ヲナシ此ニ
又巨岩壁立シ殆ト流ヲ塞クガ如シ亦數尺ノ
級拆アリ其間ヨリ流レ去ル是ヨリバーナム

大正十一年

十七

村ヲ發シ汽車ニテアホレテルゲンノ驛ニ達
シ馬車ヲ僦ヒタイ河ノ南ヲ走ル此路甚坦ナ
リセ子ラル某ノ開キシ路ニテ關門アリ路錢
ヲ收ム凡前後ノ山徑多ク豪姓ノ私有ニカ、
リ路モ亦私開ノ路ニテ路錢三ペンス六ペン
スヲ收ル所多シ又新旧兩路ノ存セルハ旧路
ハ狹小險惡ニテ我山路ニ同シ大抵百年前後
ニ改メ開キシ所多シトナン扱タイ河ヲ下レ
ハ亞爾チールカンメル氏ノ莊園アリ鬱茂ナル深林

數町ヲ過テ後ニ一ノ古砲臺アリ谷ニ臨ミ谷
底ニ其居宅アリ前山ノ景致亦佳ナリ左ニテ
イ湖ヲ望ム湖ノ兩岸ミナカンメル氏ノ所有
地ニテ歲ニ八万磅ヲ收ムト是ヨリタイ湖ノ
北灣ナル山路ヲ走ル馬駕ニ車運漚シ四字ニ
漸クキリニ村ニ達スタイ湖ノ尾ニシテペン
ソールス山麓ニアリ此山高キ一四千二百尺
キリン村ハ古戰場ニテカンメル氏ノ古城ア
リ城ノ四ノ黄昏ニ至ル蘓地ノ日晷甚促シ五

卒ニ没ス終日日光蒼茫トシテ朝陽ノ如シ其
 風景モ亦惨淡ニシテ我邦ノ氣象ニ異ナリ
 同十七日朝陰雨ス六字半ニ駕シ溪流ニ傍ヒ荒
 山ノ間ヲ車走スルニマイル許ニテ汽車驛ニ
 至リ乗車シテカラルントルニ赴ク途中ニエ口
 湖ヲ過ク山開チ山開ケ佳趣アリ
 此邊ノ山野多ク荒蕪シ牛羊ヲ放テ山腰ニ
 至ル鋤犁ノ跡少シカラルントルヨリ馬車ニ駕
 シオコレイ湖ニ赴ク山原益荒蕪シ雉飛鬼走

野薇狼籍ニテ一路蕭條タリオコレイ湖尾ニ
 至リ奇峯峻嶺ノ參差タルヲミル湖盡テ深林
 ノ内ヲ走リトロサキツ湖ニ至ル此邊ノ峯状
 甚奇々画人アリテ画樓ヲ構シ其景ヲ寫セリ
 トロサキツニテ朝食ス「ホテル」ノ主人使節ヲ
 享シ車ヲ駕シ兄弟同シシ從ヒ来リ前ニ一車
 ヲ立テ「バーフパイア」ト云蘇格ノ樂器ヲ吹テ
 先行ス其聲劉亮トシテ笛ノ如ク笙ノ如シ夫
 田リヤツツル湖ニ至ルトロサキツノ主人此

ニ河蒸氣船ヲ儀シテ之ニ上テシメテ湖中ヲ
映ス此湖口ハ奇峻ノ峯面々環立シテ湖光ヲ
拱シ湖中ニ嶼アリ秋葉ノ色兩岸ノ樹ト互ニ
掩映シ時ニ天晴レ日色蒼茫宛トノ画中ヲ行
カ如シ湖尾ニハグラスゴロノ上水樋アリ此
ニ登視シ遂ニストロ子チヤラチユルノ岸ヨリ馬
車ニテ山路ヲ越ル此ニ燃ル土ヲ出ス土人之
ヲ掘テ處々ニ山堆セリ夫ヨリインウエルスナ
イドルノ瀑ヲ看ル瀑ハ小湖ヨリ源ヲナシテ

此ニ至リテ教層遽ニ落テロクローモント湖
ニ入ル亦佳境ナリインウエルスナイドル岸ヨ
リ湖中ノ郵船ニ登リ全湖ヲ回ル兩岸ノ山ニ
ナ奇姿アリ最モ高キハベンローモン山也ス
夜ニ入テハ口ホノ岸ニ建シ直ニ汽車ニ上リ
十字又エザンボーク着ス
同十八日陰リ十一字ヨリ英吉利系ノ大寺ニ詣
ル禮拜男女六百人アリニ字ヨリ蘇格蘭宗ノ
大寺ニ詣ル同七百人

大正九年十月十一日

同十九日陰雨終日降りテ已マズ十字ニ汽車ニ
上リエザンボ——クヲ發ス本戸副使ハ後レ
テ發シ伊藤副使ハグラスゴロニ遊ク大使一
行五人ナリ知事驛マテ送り爆彈ノ設ケアリ
十一字半エガラシル村ニ至ル知事案内シ
シ羅紗織場ヲ觀ス此場ハ人ヲ用フル男女三
百廿四人ニテ機數百モアリヌヘシ去年中ニ
織ル所ノ原價六万四千四百八十ポント夫ヨ
リ府廳ニテ晝食ヲ供シ樂ヲ奏ス當府ハ人口

一万人夫ヨリムルロース村ニ達シ汽車ヨリ
下リテアベトカソルノ古寺ヲ見ル是ハ三百
年前ノ兵燹ニテ頽壞シ今只四壁ノミ存ス遠
近ノ豪姓ナホ来リ英ル五字半ニ上車シ九字
半ニニューカソソルニ着ス此日鍊軌ノ程一百
六十四マイルニューカソソルハ人口十萬九千
ニ東海ニ控ヘル要港ナリ此ニ煤礦ヲ出ス
同二十日薄陰九字半ニ名砲ノ發明者ナルアル
ハストロウング氏ホテルニ来リ駕シテ其製作

大正九年十月十一日

二二

場へ案内ス當場ハタイル河ノ岸ニ傍テ起シ
 水カヲ用ヒル汽力ヨリ多シ製スル物件ハ鍊
 鐵床及ヒ諸器械ミナ之ヲ製ス大砲ハ其一
 大部分ニ屬ス二百五十磅ノ後装螺旋砲十二
 門小砲ハ四十餘門ヲ成就シ居タリ夫ヨリ瓦
 斯ヲ焚ク巨鑪アリ棒鍊ヲ熔成スル所アリ砲
 ノ身金ヲ卷ク所アリ是ハ長キ瓦斯ヲ蓄ヘタ
 ル鑪ヨリ十餘間ノ鋼條ヲ次第ニ引出シテ卷
 ク其仕掛人ヲ驚ス其後米國發明ノガットリ

ンゴントト云旋轉連發ノ小銃車ヲ示シ二百
 五十ノパトロシヲ五六秒字間ニ發シテ示セ
 リ場内ノ役室ニテ晝食ヲ供シ夫ヨリ其別宅
 ヲ過キテコフヘットノ石炭礦ニ至ル炭ノ厚サ
 九尺ヨリ六尺ニ至ルアルハストロングト共
 ニ礦中ニ入ル礦ハ地ニ入ル四百フィート釣瓶
 仕掛ニテ釣下ス下底ハ闇黒ナリ人毎ニ燈ヲ
 執テ奥ニ入ル一マイル許ニテ炭ヲ鑿ル所ニ
 至レリ此礦ハ三年前ヨリ開ク之ヲ掘ル深キ

一三マイルノ奥ニ至リ地底ニ路ヲ通スル市街ノ如シ皆鉄道ヲ設ク五字四十分ニ帰り夜ヲ整ヘテアルムストロンダ氏ノ招宴ニ赴ク今夜伊藤副使モ着ス

同二十一日晴天夕ヨリ又陰ル此日ハタイル河ヲ航シ下リテ河岸ノ製造場ヲミル十字ヨリ車ニ駕シ町會所^{キスチ}ニ至リスピーチヲ取代シ夫ヨリ河蒸氣船ニ上リ先ツタイル新橋ノ石基ヲ築ク仕掛ヲミル夫ヨリ河ヲ下リヘッボンク

イノ製銅場ニ至ル此ハ硫磺ヲ採リシ石ヲ輸シテ銅ヲ分拆スル所ナリ人ヲ用フル三百人夫ヨリヘッボンクステーションノ製鉛場ニ至ル此ハ棹鉛ヲ輸シ来リ銀ヲ分拆シ出シ純鉛トナシ鉛板白鉛丹鉛ヲ製ス人ヲ用フル三百人夫ヨリ上船シ河岸ニアル掀泥船ヲミル汽力五十五馬力ニテ一晝夜ニ一万七千噸ノ泥ヲ掀ルト此タイル河ハ元淺淤ニテ船出入シ難カリト此器械ニテ冬浚シ遂ニ此盛ナル港ヲナ

セリ今ニ終年泥ヲ掀テ絶ルナシ此邊ニノツク
多シ松内ニテ晝食ヲ享シ夫ヨリ下テ曹達製
場ヲ略登シテ船ニ上リ海岬ニ下ル岬ニ近キ
所ニ二三ノ小山アリ高サ十二丈是ハ五十年
前ヨリ入港ノ船ヨリ弃シ沙ヲ積チ成セル山
ナリト凡輸出盛ナル港ニハ輸入ノ船沙石ヲ
積チ来リ物ヲ買テ帰ル輸出ノ貧ナル港ハ之
ニ反シ沙石ヲ賣ルモノナリ夫ヨリ海岬ニ波
戸ノ築造ヲミル是ハコリポート云海石ヲ

鋸截シテ築ク其鋸屑ハ以テ曹達ヲ採ル海角
ノ波戸ハ海ニ斗出スル殆ト一マイルタイウ
ンベルト云入水鐘ヲ仕掛テ水底ニ工作ヲナ
セリ夫ヨリ燈明臺下ニ至リ難船救助ノ仕組
ヲ示ス時ニ已ニ黄昏ナリ歩シテ驛ニ至リ汽
車ニ乗ス村人前後ヲ戀ヒテ觀ルセ字ニ帰館
シ八字ニ天文臺ニ至ル世界第一ト云フ矣望
遠鏡アリ
同二十一日雨フレ十字ニ汽車ニ上ル伊藤副使

大正三年十一月

三十四

ハ猶留ルニ字四十分ニブラットホールニ着
 ス路程七十九マイルブラットホールハ約克郡
 ノ一都會ニテ人口十二万アリ毛織物ノ名所
 ナリ當驛ニテ知事出迎ハ市民路ヲ挟ミ集觀
 セル堵墻ニ異ナラス前後第一ノ群集ナリ知
 事ヨリ旅館ヲ定メ晝食ヲ用意シテ待タリ夜
 又ホテルニテ小宴ヲ開キ饗應ヲナス
 同二十三日陰リ十字ヨリ知事案内ニテ汽車ニ
 上リソルテヤ村ニ至ル此村ハ二十年前マテ

ハ野ニテアリシヲサーサイトル氏之ヲ開キ
 テ毛織場ヲ建シヨリ遊民留至シテ今ハ五千
 ロノ大村ヲナセリ此場ハ羊毛ノ纖維長キモ
 ノヲ紡シテ布ヲ織ル所謂絹吳呂ノ類ナリ人
 ヲ用ヒル男女四千人数一千挺ヲ運シ一機
 ノカ一周日ニ一百八十ヤードヲ織ル此場
 ニツキテ寺アリ食堂アリ小學校アリ病院ア
 リ養老院アリ恤窮院アリパークアリ皆タイ
 トル氏ノ建ル所ナリ童幼ハ半日場ニ入テ業

ヲ曝リ半日ハ學ニ入テ稽古スルヲ法則トス
場内ニテ晝食ノ享アリ夫ヨリ汽車ヲ返シム
ツトランド村ノリスター社ノ織絹場ニ至ル
此場ハ當時營造中ニテ半成就ナリ現ニ人ヲ
用フルニ千五百人機數二百五十挺ヲ運ス全
場ハ六ヶ月ノ後ニ成ル六千人ニテ一千挺ノ
機ヲ織ル目論見ナリ此場ハ肩爾肩絲ヲ輸シ
来リ之ヲ煮テ之ヲ晒シ之ヲ彈シ之ヲ拂リ之
ヲ紡シ細絲トナシテ天鷲絨ヲ織ル其器械ハ

紡毛ノ器ニ似テ更ニ精巧ヲ盡セリリスター
ノ長子今横濱ニ出張中ナリ

同二十四日陰リ小雨ス九字五分ヨリ汽車
ニテハリハックスニ至ル知事驛ニ迎へ市民堵
藩ヲガシテ觀ル夫ヨリ車ニ駕シクロスリ
社ノ毛織場ニ至ル此ハカーペツトフランク
トヲ織ル大場ナリ人ヲ用フル五千ニテ四
百機ヲ運ス又天鷲絨ヲ織出ス夫ヨリカー製
作場ニ至ルカーハ毛布ノ面ヲ擦シテ毛ヲ搔

起ス器ナリ人ヲ用ヒル二百五十人三四百ノ
器械ヲ運ス夫ヨリクロスリー氏ノ育孤學校
ニ至ル生徒男女二百五十人アリ歌ヲ諷シ使
節ヲ祝ス夫ヨリスピーチヲ取代シ晝食ヲ供
ス時促ス倉卒ニ帰館ス時ニ三字ナリ半字ヲ
經テパークス等山口副使ヲ伴ヒホールト
ニ赴ク林久米從フ汽車驛ニテ爆彈ノ祝アリ
ホールト驛ニ至レハ村民羣集シ待ツ是ヨ
リ馬車ニテ三四マイルヲ走リテホールト

ブリッヂニ至リ泊ス

同二十五日晴天大使ハシメブラットホールニア
リ無事ナリパークス等ハ山口副使ヲ誘シ朝
十字ヨリホールトニアベールニ詣ル是ハ七百
年前ノ古寺ニテ有名ノ靈場ナリ遠近ノ有姓
汽車馬車ニテ來集シ禮拜ノ男女百餘人アリ
畢テホールト川ノ上流ニ廻リ風景ヲ攬ス
此ハダヘンシヤ去克二十八日ノ所有地ニ
テ沿流ニマイル許ノ間林幽ニ水落テ佳景多

大英信報

(三)

大英信報

(三)

シ河上ニ古城アリ又プラットホールの上水ヲ引シ所アリ帰路ニダイヤパークノ瀑ヲミテ四字ニ返ル

同二十六日陰リ一字ニ山口副使ポールのトシヨリ帰ル一字半ニプラットホールの驛ヲ發シ四字ニダブフィールドノ驛ヲ達ス伊藤副使ハ先タソテ着セリ當府ノ豪姓ウィルソン氏兄弟驛ニ迎へ其車ニ駕シテ其宅ニ招キ宿セシム當府ハ人口廿四万アリ鋼物ノ名所ナリ此夜ウィルソン氏

ニテ會食ス

同二十七日陰リ十字ヨリウィルソン氏ノ車ニ駕シカメロ社ノ鋼材製造場ニ至ル此ハ最初鑪製セル場ナリシヲ二十五年ニカメロ之ヲ弘張セシニ當時世ミナ以テ狂トセリ夫ヨリ鋼材甚ク世ニ必資トナリテ竟ニ英國ヲ傾ケル火場トナレリ此ハ甲鉄艦ノ鋼材ヲ鋸ヒ展ハ針金ヲ展ヘ車輪車軸ヲ鑄成ス場内辭舎恰

供アリ其後同社ノ別一場ニ至ル此ハ汽車大
小ノ輪及ヒ「スプリング」ボハ「キ」皆「金」ヲ製スル場
ナリ五字半ニ帰リ「ウイリソン」氏ニテ會食ス
同二十八日陰天ニテ風凄シ夜中ヨリ雨フル十
字ヨリ「ウイリソン」氏ノ車ニ駕シ北走スル七八
マイルダベンシヤ「丟克」ノ館ニ至ル是ハ「約克」
郡ノ古キ名族ニテ英ノ華族中ニテ最モ富貴
ナル家ナリ六ヶ所ニ田地ヲ占有シ一歳ニ地
代二十万磅ヲ收ム此所ハ其一部ナリ當「丟克」

名ハリヤールト此館ヲ「チャットウオースハウスト」
云高宇ノ石彫屋ニテ内景ハ金銀ヲ鏤シ錦繡
ヲ張リ室々ミナ莊麗ヲ極メ其中ニ古器古畫
名器名畫等珍奇ヲ盡シ之ヲ飾リ之ヲ攤シ其
價ミナ不貲又書籍ヲ蓄ヘシ數室アリ説法ノ
堂モアリ「丟克」親ヲ案内シテ室々ヲ回リ庖廚
酒窖マテ殘ラス之ヲ示シ一家ト大業ヲ同ク
シテ「晝食」ノ供アリ了テ又浴室馬廐庭花花窖
ヲ回ル皆豪華ナラサルナシ四字ニ館ヲ辞シ

大橋新聞

二十

帰路ニカノロ氏ノ宅ニ立寄ル主人茶ヲ享ス
暫時立談シテ後ニウィルソン氏ニ帰り會食ナ
シ夫ヨリ伊藤山口兩副使他凡五名舞踏會ニ
招カレ一字ニ帰ル

同二十九日陰リ朝十字ニウィルソン氏ノ車ニ駕
シロツチャース社ノ及物製作場ニ至ル此場ハ食
刀懐刀剪刀鉄刀肉七其外鋼及象牙ノ細エヲ
ナス所ナリ夫ヨリウィツカールス社ノ製鋼場
ニ至ル此ハ砲身汽軸ノ巨鋼材ヨリ車輪鉄軌

等マデミナ造ル火鑪ノ開ク六百四十ハコ
ノ銀鉄ノ植大ナルハ重サニ十五噸ニ至ル人ヲ
用ヒルニ千人ナリ夫ヨリ府廳ニ赴キスピー
チヲ取代シ了チリキソン社ノ銀焼付細工場
ニ至ル此ハブリタニヤノタール錫鉛ノ和所
謂英吉利銀
ニテ細エ不蓋シ廉價ノ器トス此ヨリ帰り衣
ヲ振ヘニ五字半ヨリロツトラス社中ノ享筵
ハ赴ク會食ノモノニ百三十一人此行第一ノ
盛宴ナリ

十月一日陰リ小雨スル朝チマイルドヲ發スウイ
 ソン氏兄弟驛マテ送り来ル十一字ニ汽車ヲ
 發シバーミンクハムニ赴ク途中ニポールト
 川ノ麦酒製造場ニ至ル此場ハ五十一マイルノ長
 ノ區域ヲ占メ場内ノ鉄道十二マイルノ長
 ノ製造ノ辭舎之ヲ扱シテ起ル樽ヲ積ムテ處
 處ニ壘ヲナシ麦ヲ堆シ丘ヲナセリ都テ人ヲ
 用フル一千餘人年ニ六十五万樽ヲ製シ出ス
 一樽ハ三十八社長ヲオールソツフト云場内ニテ

晝食ノ享アリ五字半ニ汽車ニ上リ七字ニバ
 ーミンクハムニ着ス本日ノ程百餘マイルバ
 ーミンクハムノ人口三十七万人倫敦ノ北百
 五十マイルニアル都會ニテ諸細工ノ名所ナ
 リ
 同二日半陰半晴夕ニ過雨ス九字半ノ汽車ニテ
 コウイェントリーニ赴ク當地ノ人口四千人
 知事驛ニ迎へ車ニ駕シテガセス社中ノ織文
 場ニ至ル是ハ木棉ヲ以テ織リ婦人衣裳ノ飾

リ等ニ用ヒル物ナリ織機ノ仕掛甚タ巧ナリ
夫ヨリ「スチーブン」社ノ織文場ニ至ル是ハ絹ヲ
以テ織リ婦人ノ帽帯襟領等ノ飾リ及ヒ紙折
ニ用ヒル物ナリ夫ヨリ「ロソム」社ノ時計細工
場ニ至ル人ヲ用フル五百人有名ノ大製作場
ナルヨシ夫ヨリ市中ノ「セントマックス」ノ古
寺ニ至リ回覽シ畢テ府廳ニ入り晝食ノ享ア
リ夫ヨリ汽車ニテ「ウオリッキ村」ニ至リ「ウオリッキ五
爾」ノ古城ヲ觀ル城廓ミナ儼然トシテ完存シ

中ニ其家ノ什物古器古甲ヲ攤列ス英地ノ古
城ニテ此ノ如キ完全ナルモノ罕ナリト當地
ノ知事其家ニ延キテ略饗ヲ享シ一家ト會食
ス八字ニ「バーミングハム」ニ帰ル

同三日陰リ

同四日陰リ十字ニ貿易場ニ於テスピーチヲ取
代シ車ニ駕シテ「チャンセス」氏ノ燈明臺及ヒ板
玻璃製造場ニ至ル場内ニ學校アリ童男女十
餘人ヲ入レ教ユ此燈臺ノ玻璃ヲ製スルハ甚

秘奥ニテ英ノ此場ト佛ニ今一家アルノイ板
玻璨ハ薄キ品ニテセントヘーレンヨリ下品
ニカ、ル次ニ金銀ノ針ヲ製スル場ニ至ル休
業ニテ細エヲミス夫ヨリヒンク及ヒヴェルス
社ノ鋼筆製造場ニ至ルセツフィールドノ鋼板ヲ以
テ更ニ治シ四十器ヲ傳ヘテ成ル男女五百人
ヲ用フ毎日ニ六十万箇ヲ造ルト云夫ヨリア
ストン氏ノ紐釦細工場ニ至ル金銀焼付アリ
布帛包ミアリ又一種ハ南米洲ノ木實ニテ作

ルアリ其エハ鋼筆ト異曲同エナリ人ヲ用ル
男女八百人此場ニテ酒ヲ享シ暮ニ歸リ七字
半知事ヨリ招宴ヲ設ク會食ノモノ五十餘人
同五日陰リ時トシテ日光ヲ漏ス九字半ヨリ駕
シテコンフォル氏ノ釘製造場ニ至ルセツフィールド
ノ鋼ノ針金ヲ治シテ器械ニテ之ヲ截レハ一
分時間ニ百三十箇ノ釘ヲ獲ル夫ヨリオ、ス
ラ氏ノ玻璨細工場ニ至ル此場ニテハ吹立ル
處ヲミス尺之ヲ礮シ磨シ金具ヲ施スノミ人

ヲ用フル百五十人夫ヨリエルキンソン氏ノ
 金銀焼付細工場ニ至ル此場ニハ獨逸銀ヲ以
 テ作ルモ、[「]シルドヨリ上品ニカマル電氣法ヲ
 以テ金銀ヲ焼付ケ銀鋼ノ型ニ打込テ諸品ヲ
 作ル人ヲ用フル八百人夫ヨリ帰テ食ヲ辨シ
 再ヒ駕シテ府廳ニ至ル中堂ニ樂器ヲ仕掛ケ
 寺堂ニ彷彿タリ夫ヨリ[「]メント社ノ造幣ヲミ
 ル是ハ政府ノ頼ミニテ金銀銅三品ノ幣ノ地
 ヲ打立ル所ナリ夫ヨリ小銃製造場ニ至ル此

ハ府ノ南部[「]アリテ廣大ナリ造營モ亦義ニ
 テ場舎甚多ク盡ク觀ルヲ得[「]當時魯西亞國
 ノ頼ミニテ新發明ノ後裝銃三万挺ヲ製作中
 ナリ每挺ノ價ニ磅五字半ニ歸ル夜ホテ[「]ニ
 於テ商社ヨリ饗宴ヲ開ク會食ノモノ八十餘
 人アリ
 同六日陰リ九字半ヨリ汽車ニテウスター村ニ
 至ル當村人口四万千四百八十六人アリボ
 ルト[「]河琴酒社ノ長オ[「]ルソツフ家車ニテ迎

ハコスイレッツテコルトニ於テ狐狩ヲミル騎馬
 六十人隊長一人ニテ五十餘頭ノ犬ヲ驅リテ
 狐ヲ逐フ是ハ驅逐奔跳シテ運動ヲナスノ目
 的ニテ必ス狐ヲ獲ルヲ要トセス此日一狐ヲ
 イルノミ又平日ハ婦人モ加ハルト云夫ヨリ
 陶器製造場ニ至ル此場ハ人ヲ用フル五百人
 ニテ製スル品ハ上品ノモノ少シ此ニテ晝食
 ノ享アリ五字ニバーミレクハムニ帰り即行
 李ヲ解シテビーストレンカツソルニ赴ク車程ニ

十三マイル八字ニ達シ馬車ニ移リニマイル
 ヲ走テトルマセ氏ノ宅ニ至ル主人夫婦及ミ一
 家ノナ出テ接伴ナシ部屋ヲ與ヘテ一家ト會
 食ス
 同七日薄陰九字十五分ヨリトルマセ氏ノ全家
 ト共ニ其家車ニ駕シ主人親ヲ鞭ヲ執テ汽車
 驛ニ屆キ汽車ニテストックニノ陶器製造場ニ
 至ル此場ハ男女千五百人ヲイル、英國最上
 ノ陶器ヲ製シ出ス所ナリ水力汽力ヲ用ヒス

大徳信報第...

三十五

人エニテ細エヲナス多シ大抵土焼キノ品多ク石焼ヲ製スル甚寡シ漆付繪ハ最廉價ナリ皿一ツニテ三四ペンスニ至ル焼付繪ハ稍尊シ金入ノ繪ナレハ皿一ツニテ一兩以上ノ價ナリ石焼キハ極品ニテ三兩ニモ至ル勿論漆付ノ此ニテ晝食シ三字ニトルマセ氏ニ帰リ一家ト會食ス

同八日薄陰九字半ニトルマセ氏ノ家車ニテ十ハマイルヲ走り十一字ニウエストノースウイ

一キ村ニ至ル村中旗ヲ揚ケ祝鐘ヲ鳴シテ之ヲ待テ導キテ其鹽礦ニ至ル礦ノ深サ百二十ヤード鹽石ノ厚サ二丈六尺ニ及フ火藥ニテ之ヲ爆裂スル石炭ヲ掘ルニ同シ鹽石ヲ掘ル層ニ些ノ水氣ナシ此日礦中ニ七万ノ蠟燭ヲ點シテ使節ヲ饗シ會社ノ男女百餘人ニテ礦中ニ下リ此ニテ晝食ノ饗アリスピーチヲナシ盛ナル會ナリ礦内ハ闇黒ナレバ乾燥ニシテ微風常ニ渡り周年氣候五十六度ナリト

大徳信報第...

三十五

是此行ノ最一ノ奇觀トス三字ニ礦ヲ出テハ
マイルヲ走テテスターノ鄙ナル製塩場ニ至
ル此ハ地底六十ヤードノ下ヨリ塩水ヲ汲
シ揚テ之ヲ製ス鹽石ニ比スレバ上品ナリ人
ヲ役スル儘ニ七十八年ニ六十万噸ヲ製シ出
ス毎噸ヲ製スルニ石炭ヲ焼ク半噸最下ノ煤
炭ヲ用フ茲一噸ノ價十八シレリニ過キス
七字ニトルマセ氏ニ帰ル

同九日晴天朝トルマセ氏ノ宅内ヲ回覽シ馬廐

花園ヲ回リ其田園ヲ巡ルトルマセ氏ハ當郡
ノ代議人ニ六回ノ撰ヲ経ルマテミナ入札ニ
中リ三十年連綿トシテ出勤セシ古今罕ナル
人望名士ナリ其宅ハビーストレノ古城ニ對
セハ山上ニ城壘ヲ模シテ之ヲ營築ス其費百
万磅ヲ費セリト田地六千町ヲ占有シ此ハ其
一部分ニテ平日ハ別墅ヲ住居トスルト其妻
娘モ汽車驛マテ送り夫ヨリ二十四五マイル
ヲ走りテスターニ至ルトルマセ氏ノ案内ニ

市の中ヲ見廻リ裁判所ニ至ル祝鐘ヲ鳴シ之
 ヲ待ツ内ニ入り室々及ヒ牢獄ヲ回覽ス其趣
 々略ムエントレストルニ同シ夫ヨリ古寺ヲ觀テ
 汽車驛ニ至ル當府ハ人口三万一千人アリ驛
 ニテトルマセ氏ニ別ヲ告ク汽車ニテ北走ス
 ルニ百マイル六字半ニ倫敦ノユースト驛
 ニ達シ直ニ駕シテ王城前ノ舊旅館ニ歸ル此
 夜ハ英ノ太子誕生日ニシテ且倫敦ノ知事交
 代日ナルヲ以テ市中ニ瓦斯燈ヲ點シテ甚賑

カナリ此回ノ一歴凡テ六週日ヲ費シテ英蘇
 兩部ノ都府大ハ八ヶ所小ハ十餘ヶ所製造所
 ヲ回ル殆ト五十所ニ及ス時秋冬ノ候ニテ全
 英雨陰多ク且日景漸クニ促シ甚倉皇ヲ走レ
 ス倫敦近日ノ日景ハ五字前ニ日没ス加フル
 ニ多陰多霧ニテ四字ニ燈ヲ點スルヲ常トス

大徳寺御書第十一

三十一

官版

不許翻刻

御用御書物師

北畠茂兵衛

村上勘兵衛

山中市兵衛